

マルチコントロール オーディオマスター

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



本機は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故の原因となります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

はじめに本書の「取り付けと接続」を行ってください。



MDLP

WX-S2200



警告

安全のために

本機は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故の原因となります。

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

この取扱説明書の注意事項をよくお読みください。

道路交通法に従って安全運転する

運転者は道路交通法に従う義務があります。前方注意をおこななど、安全運転に反する行為は違法であり、事故やけがの原因となります。

- 運転者は走行中に操作をしない。
- 車外の音が聞こえる程度の音量で聞く。

定期的に点検する

1年に1度は、電源コードに傷みがないか、振動により配線がはずれていないか、接続部分が車体と接触していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口にて修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、
煙が出たら



- ① 安全な場所に車を止める
- ② 電源を切る
- ③ お買い上げ店またはソニーサービス窓口にて修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電により死亡や大けがなどの原因となります。



注意

この表示の注意を守らないと、けがをしたり自動車に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電



指挟み

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止

行為を指示する記号



指示

目次

⚠ 警告・⚠ 注意	4
電池についての安全上のご注意	7
MDの取り扱い	8
「グループ機能」について	9
CDの取り扱い	10
MP3について	12
はじめに	15
まず、本機をリセットする	16
CD/MD・ラジオの聞きかた	17
各部のなまえ	19
カードリモコンの操作	21
時計を合わせる	23

CD/MP3・MD

CD/MP3・MDを聞く	24
繰り返し聞く（リピート再生）	30
曲順を変えて聞く （シャッフル再生）	31

ラジオ

放送局を自動で登録する	32
放送局を手動で登録する	35

サウンドの設定

DSOを設定する	36
イコライザーを使う（EQ7）	37
音のバランスや音質を設定する （バス）（トレブル）（バランス） （フェーダー）（ATT）	40
BBE MPの設定を変更する	41

その他の操作

音や表示などの設定を換える	42
ディスク/放送局に名前をつける （カスタムファイラーディスクメモ） （ステーションメモ）	44
ディスク/放送局を名前で探す （リスト）	47
画面モード・ 表示画像を設定する	48
ポータブル機器の音声を聞く	50

取り付けと接続

取り付け部品を確認する	51
接続する	51
取り付ける	54
システム接続例	58
接続関係のご注意	59

使用上のご注意	61
故障かな?	63
保証書とアフターサービス	68
主な仕様	69
索引	71



下記の注意事項を守らないと**火災・感電により死亡や大けが**の原因となります。

取り付けはお買い上げ店に依頼する

本機の実装には専門知識が必要です。万一、ご自分で取り付けるときは、「取り付けと接続」の説明に従って、正しく取り付けてください。正しい取り付けをしないと、火災や感電の原因となります。



指示

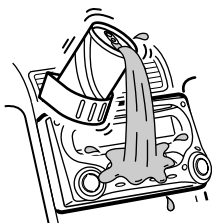


内部に水や異物を落とさない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止



規定容量のヒューズを使う

ヒューズを交換するときは、ヒューズに記載された規定容量のアンペア数のものをお使いください。規定容量を超えるヒューズを使うと、火災の原因となります。



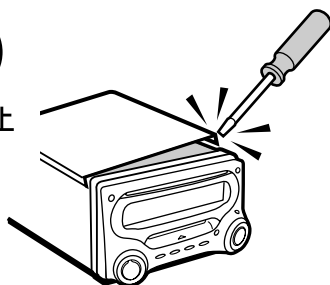
禁止

分解や改造をしない

火災や感電、事故の原因となります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



分解禁止



24V車に使用しない

本機はDC12Vマイナスアース車専用です。

大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車など、24V車で使用すると火災などの原因となります。



禁止



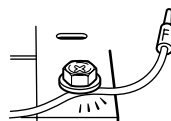
運転操作の妨げや車体の可動部の妨げになる場所に取り付けない

事故や感電、火災の原因となります。次のことをお守りください。

- ネジやシートレールなどの可動部にコード類をはさみ込まない。コード類はまとめる。
- ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどが正しく操作できることを確認する。



禁止



車の性能を維持するための部品を使わない

車体のボルトやナットを利用するとき、次の部品を使うと、制動不能による事故や火災の原因となります。

- ステアリング系統
- ブレーキ系統
- タンク類など



禁止

エアバッグシステムの動作を妨げないように取り付ける

動作の妨げになる場所に取り付けると、けがの原因となります。



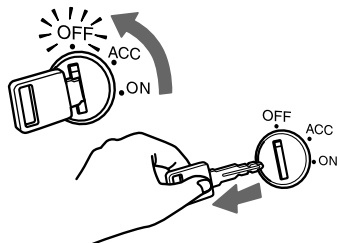
禁止

取り付け、接続作業をするときには、イグニッションスイッチをOFFにするか、キーを抜いておく

イグニッションスイッチをONにしたまま作業をすると、バッテリーあがりや、ショートによりヒューズ飛びや発煙などの原因となります。



指示

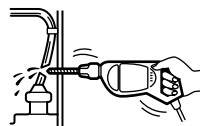


パイプ類、タンク、電気配線などを傷つけない

火災の原因となります。車体に穴を開けて取り付けるときは、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認してください。



禁止

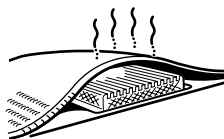


本機の通風口や放熱板をふさがない

通風口や放熱板などをふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



禁止



雨、水がかかる場所、湿気、ほこりの多い場所には取り付けない

上記のような場所に取り付けると、火災や感電の原因となります。



禁止

付属の部品で正しく取り付ける

他の部品を使うと、機器の内部を傷つける、しっかり固定できないなどで、火災やけがの原因となることがあります。



指示

次のページへつづく



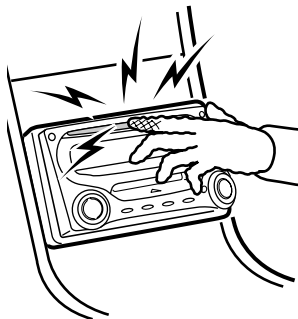
下記の注意を守らないと**けが**をしたり**自動車に損害**を与えたりすることがあります。

ディスク挿入口に手を入れない

内部で手をはさまれ、けがの原因となる場合があります。



指挟み

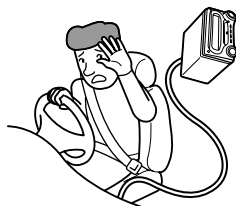


不安定な場所に取り付けない

振動の多いところや、天井などに取り付けると、製品が動く、落ちるなどにより、事故やけがの原因となることがあります。



禁止



電池についての安全上のご注意

電池の使い方を誤ると、液漏れ・発熱・破裂・発火・誤飲による大けがや失明の原因となるので、次のことを必ず守ってください。

警告

- 電池の液が目に入ったときは、失明の原因となるので、こすらずにすぐに多量の水道水などのきれいな水で十分に洗った後、医師の治療を受ける。
- 電池の液をなめた場合には、すぐにうがいをして医師に相談する。
- 乳幼児の手の届かないところに置く。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談する。
- 火の中に入れたり、加熱、分解、改造しない。
- 電池の（+）と（-）を正しく入れる。
- ショートの原因となるので、金属製のコインやキー、ネックレス、ヘアピンなどと一緒に持ち運んだり、保管しない。
- 電池は充電しない。
- 電池に液漏れや異臭があるときは、すぐに火気から遠ざける。
- 電池に直接はんだ付けをしない。
- 保管する場合および廃棄する場合は、テープなどで端子部を絶縁する。
- 皮膚に障害を起こすおそれがあるので、テープなどで貼り付けない。

注意

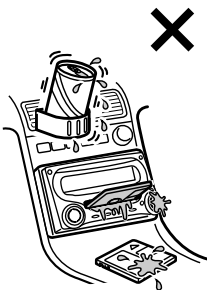
- 電池を落下させたり、強い衝撃を与えたり、変形させない。
- 直射日光の強い所や炎天下の車内などの高温・多湿の場所に放置、保管しない。
- 電池を水などで濡らさない。

MDの取り扱い

MD自体はカートリッジに収納されていますので、ゴミや指紋を気にせず手軽に取り扱えるようになっています。ただし、カートリッジの汚れやそりなどが、誤動作の原因になることもあります。いつも美しい音で楽しめるように次のことにご注意ください。

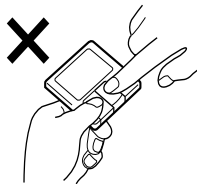
良い音で聞くために

車内でカップホルダーなどをお使いになるときは、不意の振動などでジュースなどがこぼれて、MDソフトにかからないように充分ご注意ください。そのままMDを再生すると故障の原因になります。



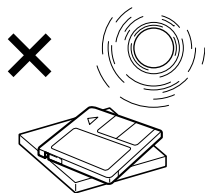
MD内部に直接触れない

シャッターを手であけないでください。無理にあげるとこわれます。本機から取り出したときなどに万一シャッターが開いてしまった場合は、すぐに閉めてください。



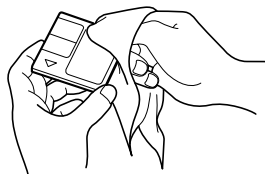
保存

直射日光が当たるところなど高温の場所、湿度の高いところには置かないでください。特に夏季、直射日光下で窓を閉め切った車のシート、ダッシュボードの上などはかなりの高温になりますので、絶対に放置しないでください。



お手入れ

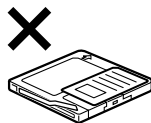
カートリッジ表面についたホコリやゴミなどを乾いた布で拭き取ってください。



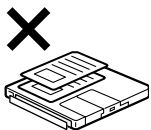
ラベルを貼るときにご注意

ラベルは、カートリッジに正しく貼られていないと、MDが本機から取り出せなくなることがあります。

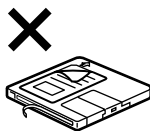
- 指定の場所に貼ってください。



- 重ねて貼らないでください。



- ラベルがめくれたり、浮いているときは新しいラベルに貼り換えてください。



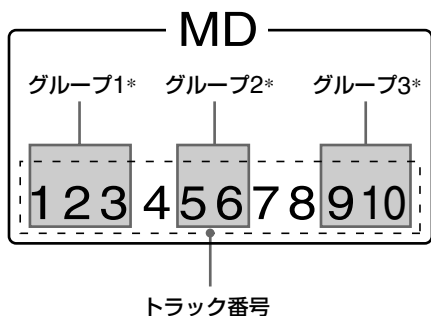
「グループ機能」について

グループ機能は多数のトラックを録音したMDや、MDLP (LP2/LP4) モードで録音したMDを再生するときなどに便利です。

グループ設定についてのご注意

- 本機はMDの再生のみご利用になれます。MDの録音やグループの設定については、お手持ちのMDレコーダーの取扱説明書をご覧ください。
- 1枚のMDの中で同じグループ名を使って登録することができます。
- グループ番号は最大で99まで登録することができますが、実際に登録可能なグループの数はMDレコーダーの機能により異なります。
- お手持ちのMDレコーダーによっては、グループ機能がご利用になれない場合があります。

グループ設定されているMD



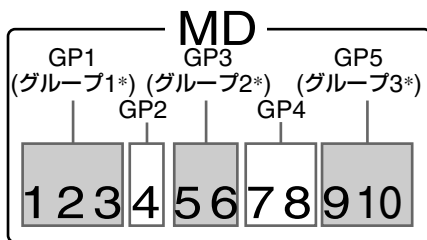
* MDレコーダーで設定されたグループ

グループ設定されたMDを本機に挿入すると、自動的に再生が始まり、曲順に演奏されます。

本機による仮想グループ設定

本機はグループ設定されたグループの間にある1曲、または数曲を「GP」(グループ)として認識します。したがって、MDレコーダーによってグループ設定されたグループと同様にグループ設定されていない曲にも「GP」番号が割り当てられます。グループ設定されたMDを本機で再生すると、グループが変わったときに「GP」番号を表示します。

グループ設定のあるMDと割り当てられた「GP」番号



* MDレコーダーで設定されたグループ

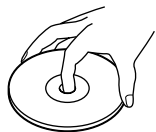
グループ機能の使いかたについては、「CD/MP3・MDを聞く」、「繰り返し聞く (リピート再生)」、「曲順を変えて聞く (シャッフル再生)」をご覧ください。

ご注意

グループ機能は、グループ設定されたMDを本機で再生した時のみ使用できます。

CDの取り扱い

ディスクの汚れや、ゴミ、キズ、そりなどが、音とびなど誤動作の原因となることがあります。いつも美しい音で楽しめるように、次のことにご注意ください。



記録面に触れないように持つ。



ディスクに紙などを貼らない。
キズをつけない。

こんなディスクは使わないでください

本体内部にディスクが貼り付いて故障の原因となったり、大切なディスクにもダメージを与えることがあります。

- 中古やレンタルCDでシールなどののりがはみ出したり、シールをはがしたあとにのりが付着しているもの。



また、ラベル面に印刷されているインクにべたつきのあるもの。

- レンタルCDでシールなどがめくれているもの。



- お手持ちのディスクに飾り用のラベルやシールを貼ったもの。



ラベルやシールを貼付したディスクは使わないでください。

次のような故障の原因となることがあります。

- ラベルやシールが本機内ではがれ、ディスクが取り出せなくなります。
- 高温によってラベルやシールが収縮してディスクが湾曲してしまうため、信号の読み取りができなくなります。(再生できない、音とびがするなど)

本機では円形ディスクのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状(星形やハート形、カード型など)をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となることがあります。

8cmCDについて

本機では、8cmCDの再生はできません。

8cmCDアダプターも故障の原因となりますので、使用しないでください。

保存

ディスクケースまたはマガジンに入れ、直射日光が当たるところなど高温の場所、湿度の高いところを避けて保管してください。

特に夏季、直射日光下で閉めきった車のシート、ダッシュボードの上などはかなりの高温になりますので、絶対に放置しないでください。

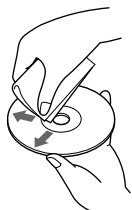


お手入れ

演奏する前に、演奏面についたホコリやゴミ、指紋などを市販のクリーニングクロスで矢印の方向へ拭き取ってください。

ベンジン、アナログ式レコード盤用のクリーナーは使用しないでください。

静電気防止剤なども、逆にディスクを傷めることがありますので、使用しないでください。









著作権保護技術対応音楽ディスクについてのご注意

本製品は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本製品で再生できない場合もあります。

CD-R/CD-RWについてのご注意

- 本機はお客様が編集された下表にあるCD-R（レコーダブル）およびCD-RW（リライタブル）ディスクを再生することができます。ただし、録音に使用したレコーダーやディスクの状態によっては再生できない場合があります。

オーディオCD		
MP3ファイル		
		

- ファイナライズ処理（通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理）をしていないCD-R/CD-RWは再生できません。
- 本機はCD-ROM、CD-R、CD-RWに含まれるMP3ファイルを再生することができます。
- セッションの追加が可能なCD-R/CD-RWも再生できます。

MP3について

MP3 (MPEG1 Audio Layer3の略) は音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

MP3を使用すれば、もとのファイルを約1/10のサイズに圧縮します。

人間の聴覚特性に基づいて、聴きとることのできない音声、不可聴帯域を圧縮しています。

ディスクについてのご注意

本機はMP3形式のCD-ROMあるいはお客様が編集されたCD-R (レコーダブル)、CD-RW (リライタブル) ディスクを再生することができます。

ディスクはISO9660のレベル1、レベル2、Joliet、Romeo準拠でフォーマットされたものが再生可能です。

本機ではマルチセッション対応で記録したディスクをご使用になれます。

ISO9660フォーマット

CD-ROMのファイルおよびフォルダーに関する論理フォーマットの国際標準です。

ISO9660フォーマットには、次のようなレベルに関する規制があります。

レベル1： ファイル名は8.3形式 (名前は半角英文大文字と半角数字、“_”で8文字以下、拡張子は3文字)。

フォルダーは名前が8文字以下で、階層は8つ以下。

レベル2： ファイル名は最大半角31文字 (区切り文字、“.”と拡張子を含む)。フォルダーは名前が半角31文字以下で、階層は8つ以下。

拡張フォーマット

Joliet： ファイル名、フォルダー名は最大で32文字。

Romeo： ファイル名、フォルダー名は最大で半角64文字。

マルチセッション

マルチセッションは、データの追加ができる「トラック・アット・ワンス」を採用した記録方式です。

従来のCDでは、制御部のリード・インでスタートし、リード・アウトで終了します。

マルチセッション対応CDは各セグメントがひとつのセッションのように機能し、各セグメントにリード・インとリード・アウトがあります。

CD-Extra： セッション1のトラックに音声 (オーディオCDデータ) を、セッション2のトラックにデータを記録するフォーマット。

Mixed CD： 1つのセッション内のトラック1にデータを、トラック2以降に音声 (オーディオCDデータ) を記録するフォーマット。

ご注意

- ファイル名、フォルダー名はISO9660のレベル1、レベル2に準拠していないと、正しく表示されない場合があります。
- ファイルに名前をつけるときは、ファイルの最後に拡張子「.mp3」を付けてください。
- MP3形式以外のファイルに拡張子「.mp3」を付けると、そのファイルを再生してしまうため、雑音や故障の原因となります。
- 次のようなディスクは再生開始までに時間がかかる場合があります。
 - 多くの階層や複雑な構成で記録したディスク
 - マルチセッションで記録したディスク
 - セッションの追加が可能なディスク
- 320kbpsなどの高ビットレートで記録されているMP3ファイル再生時には、音とびする場合があります。

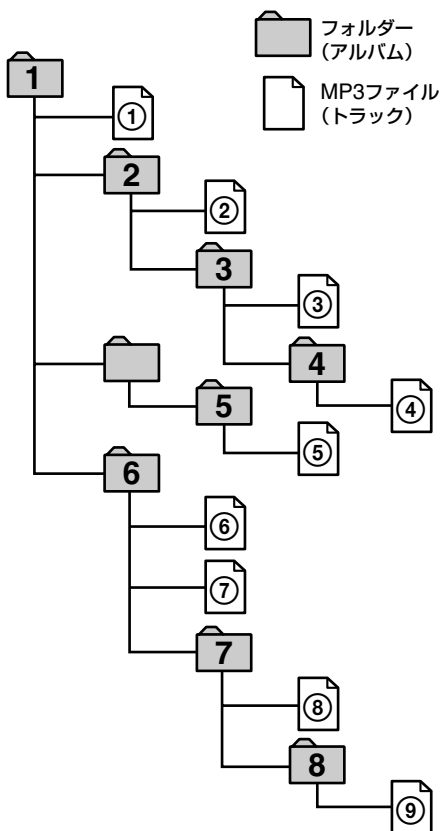
マルチセッションで記録したディスクを再生する場合のご注意

マルチセッションで記録したディスクでは、すべてのデータが再生されないことがあります。

- 最初のセッションの1番目のトラックが、オーディオCDデータの場合：
最初のセッションのオーディオCDデータのみ通常に再生し、その他のデータはとばします。
2番目以降のセッションのデータは、すべてとばします。
- 最初のセッションの1番目のトラックが、オーディオCDデータでない場合：
 - ディスク内にMP3ファイルがあれば、MP3のみ再生し、オーディオCDデータを含むその他のデータはとばします。
 - ディスク内にMP3ファイルがなければ、「NO Music」と表示し、オーディオCDデータを含むすべてのデータが再生されません。

MP3ファイルの再生順序

フォルダーおよびMP3ファイルの再生順序は次の通りです。



第1階層 第2階層 第3階層 第4階層 第5階層
(ルート)

[次のページへつづく](#)

MP3について (つづき)

ご注意

- MP3ファイルを含まないフォルダーは無視します。
- 多くの階層で記録したディスクは、再生開始までに時間がかかる場合があります。
1つか2つの階層でディスクに記録することをおすすめします。
- ディスクに含まれるフォルダーは150個までです。(ルートフォルダー、ファイルの入っていないフォルダーも含みます。)
- ディスクに含まれるMP3ファイル、フォルダーは合わせて最大300個までです。
ファイル名、フォルダー名の文字数が多い場合は、300個以下になることがあります。

ちょっと一言

同一階層内のフォルダーやファイルはライティングソフトによってディスクに書き込まれた順序で再生します。一般的には名前の数字・アルファベット順に書き込まれるため、フォルダー名・ファイル名のはじめに数字(01、02など)をつけることで再生順序を指定できることがあります。

あなたが[放送やレコード、録音物、録画物、実演などを]録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

はじめに

- 本機はCDとMP3、MD、ラジオ、外部入力（AUX）に対応。
CD：音楽用CD/音楽用CD-R/音楽用CD-RW/CD TEXT
MP3ファイル：CD-ROM/CD-R/CD-RW（ISO9660レベル1/レベル2、Joliet、Romeoに準拠して記録している）、マルチセッション対応
MD：音楽用MD/MDLP（LP2/LP4）
ラジオ：FM/AM
AUX：外部入力
- MD Group機能搭載。
- 再生中の楽曲イメージに合わせ、画像やイルミネーションの色が変化する（Space Producer）機能搭載。
- 独自のバーチャル3D技術で音像を前方定位させるとともに、クリアな音質を実現するDSO（ダイナミック・サウンドステージ・オーガナイザー）機能搭載。
- 好みの音質に調整可能な7バンドイコライザー（EQ7）機能搭載。
- MP3音源などを豊かに再生するBBE MP*機能搭載。
* BBE MPプロセスはデジタル圧縮技術によって失われた高調波を修復、補修することにより、MP3などのデジタル圧縮された音声の音質を改善します。BBE MPIは、最適量の偶数次高調波と奇数次高調波をもとの音から作り出し原音に加えることにより、効果的にやわらかさ、ディテール、ニュアンスなどを再現します。
- タイトル名などの漢字表示対応。
- バス音声入力（BUS AUDIO IN）端子を外部音声入力（AUX IN）端子と兼用することで、別売ポータブルプレーヤーなどを接続できる「AUX-Lite」機能搭載。



また、以下に記載した別売りのソニー製機器も本機のボタンで操作できます。

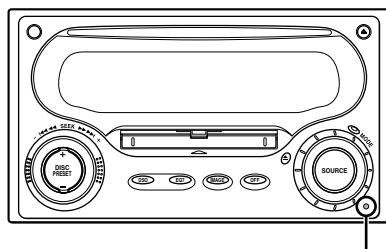
- CDチェンジャー
- MDチェンジャー

この取扱説明書では、本機の使いかたの他に、付属のカードリモコンおよび別売りのソニー製CD/MDチェンジャーを接続した場合の操作方法についても説明しています。

まず、本機をリセットする

初めて使うときや、自動車のバッテリーを交換したとき、接続を変えたときは、リセットボタンを押す必要があります。リセットボタンをつま楊枝の先などで押してください。

ただし、針のような物で強く押すと故障の原因となります。



リセットボタン

ご注意

- リセットボタンを押すと、時刻などの登録した内容が消えることがあります。その場合は、登録し直してください。
- リセットボタンを押してから約10秒間、本機は初期設定動作を行います。その間にCDまたはMDを入れると正常にリセットされないことがありますので、初期設定動作中はCDまたはMDを入れないでください。
- リセットボタンを押したり、OFFボタンを押すと、自動的にデモンストレーションが表示されます。デモンストレーションを表示したくない場合は、「Demo」（デモモード）を「off」にしてください（42ページ）。

CD/MD・ラジオの聞きかた

MDを聞く

MDを入れる

CDを聞く

CDを入れる

ラベル面を上にして
入れます。

本機では8cmCDの再生はできません。

8cmCDアダプターも故障の原因となりますので、使用しないでください。

CDを取り出す

ラベル面を上にして
♠の向きに入れます。

再生を止める

音量を調節する

MDを取り出す

曲の頭出しをする

(自動選曲センサー(AMS))

SEEK (AMS) ダイヤルをとばしたい曲の数だけ回して離します。

▶▶▶▶ : 次の曲へ進む

◀◀◀◀ : 曲の頭や前の曲へ戻す

聞きたいところを探す

(手動サーチ)

SEEK (AMS) ダイヤルを回し続けて、聞きたいところで離します。

▶▶▶▶ : 先に進める

◀◀◀◀ : 前に戻す

ディスクが入っているとき点灯します。

◻ : MD ◻ : CD

ディスクが入っているときは

SOURCEボタンを押して「CD」または「MD」を選ぶと再生が始まります。

CD再生中に一時停止するには

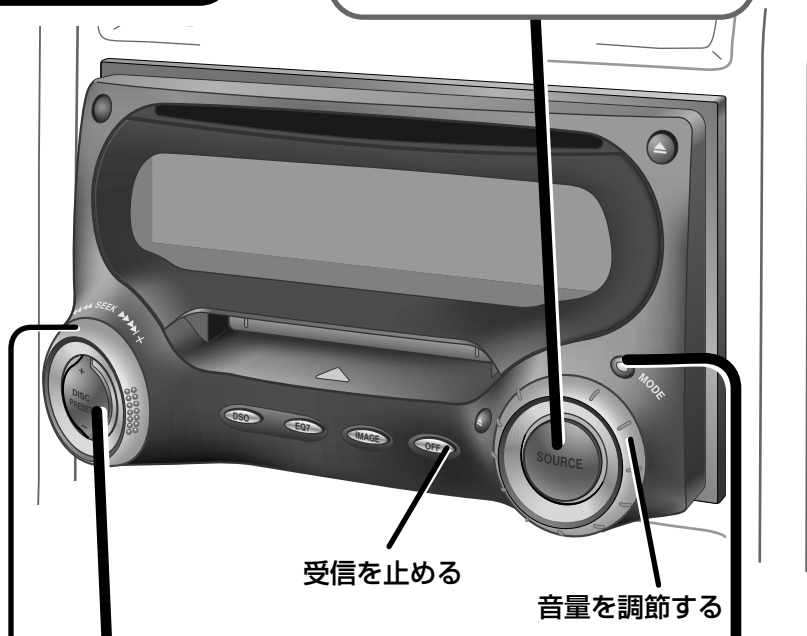
カードリモコンの数字ボタン6 (PAUSE) を押します。

もう一度押すと再生が始まります。

次のページへつづく

ラジオを聞く

1 ラジオ受信にする



3 聞きたい放送局を選ぶ

登録されている放送局を選びます。また、付属のカードリモコンでも選ぶことができます。
くわしくは32～35ページをご覧ください。

2 聞きたいバンドを選ぶ

押すごとに
FM1 → FM2 → AM1 → AM2
と切り換わります。

自動選局で受信する(自動選局)

SEEK (AMS) ダイアルを聞きたい放送局を受信するまで繰り返し回します。

▶▶▶▶ : 高い周波数へ

◀◀◀◀ : 低い周波数へ

希望の放送局を受信する(手動選局)

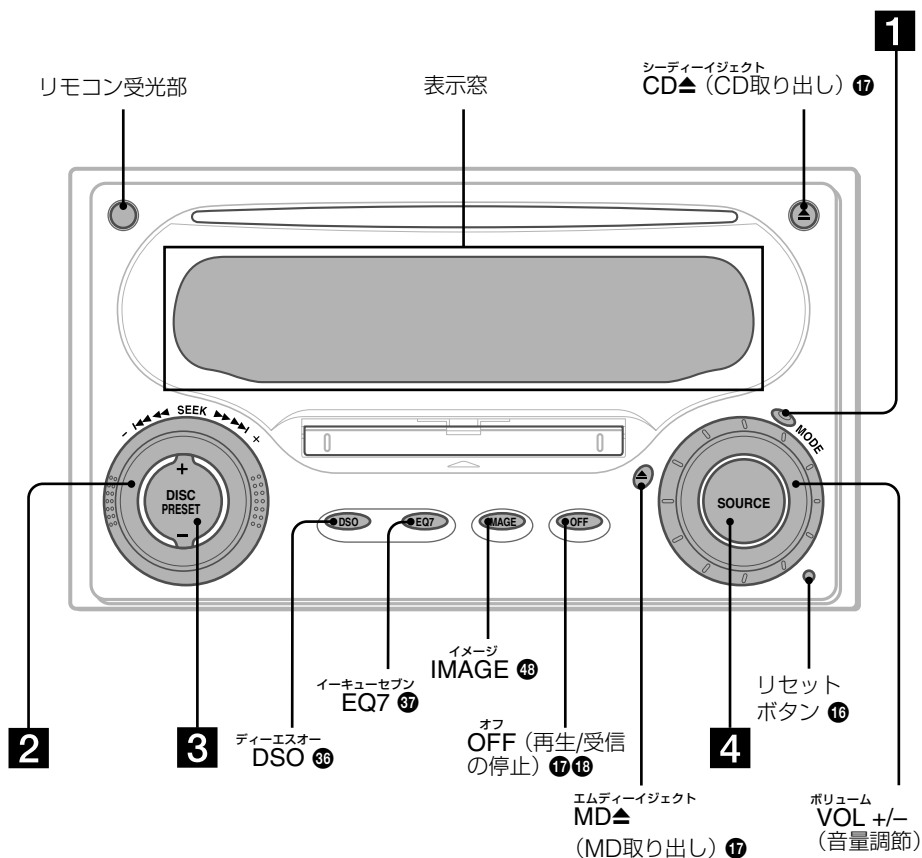
SEEK (AMS) ダイアルを回し続け、聞きたい放送局の周波数に近付いたところで、一度離します。さらに繰り返し回していくと0.1MHz (または9kHz) ごとに送れます。

▶▶▶▶ : 高い周波数の放送局を探す

◀◀◀◀ : 低い周波数の放送局を探す

各部のなまえ

くわしい説明は●内のページをご覧ください。



各部のなまえ

ACCポジションのないお車のときは、OFFボタンを押し続けて表示を消してください。
OFFボタンを短く押しただけでは表示が消えず、バッテリーあがりの原因となります。

次のページへつづく

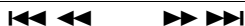
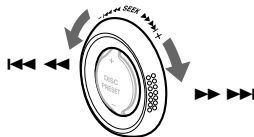
各部のなまえ (つづき)

1 モード MODE

ラジオ FM1/FM2/AM1/AM2の
切り換え 18 32 35

CD/MD*1 CD/MD機器の選択 24 26

2 シーク (エーエムエス) SEEK (AMS) (ラジオ選局/頭出し)



ラジオ	周波数の低い 放送局へ (回し続ける)	周波数の高い 放送局へ (回し続ける)
	18 33 35	18 33 35

CD/MD	前の曲へ 早戻し (回し続ける)	次の曲へ 早送り (回し続ける)
	17 26	17 26

3 ディスク/プリセット DISC/PRESET +/- (プリセットサーチ/ディスク選択*1/アルバム選択*2/グループ選択*3)



ラジオ 登録した局の選局 32 47

CD/MD ディスクの選択*1 25 47
(短く押す)
アルバムの選択*2 25
(短く押す) (長めに押す*4)
グループの選択*3 25
(短く押す) (長めに押す*5)

4 ソース SOURCE (ラジオ/CD/MD (MS*6) / AUX*7切り換え) 17 18 24 26 32 35 50

*1 別売りのソニー製CD/MD機器が接続されているとき

*2 MP3ファイルを再生しているとき

*3 グループ設定されたMDを再生しているとき

*4 別売りのソニー製CD機器が接続されているとき

*5 別売りのソニー製MD機器が接続されているとき

*6 MS: MG-MSシステムアッププレーヤー
MGS-X1 (別売り)

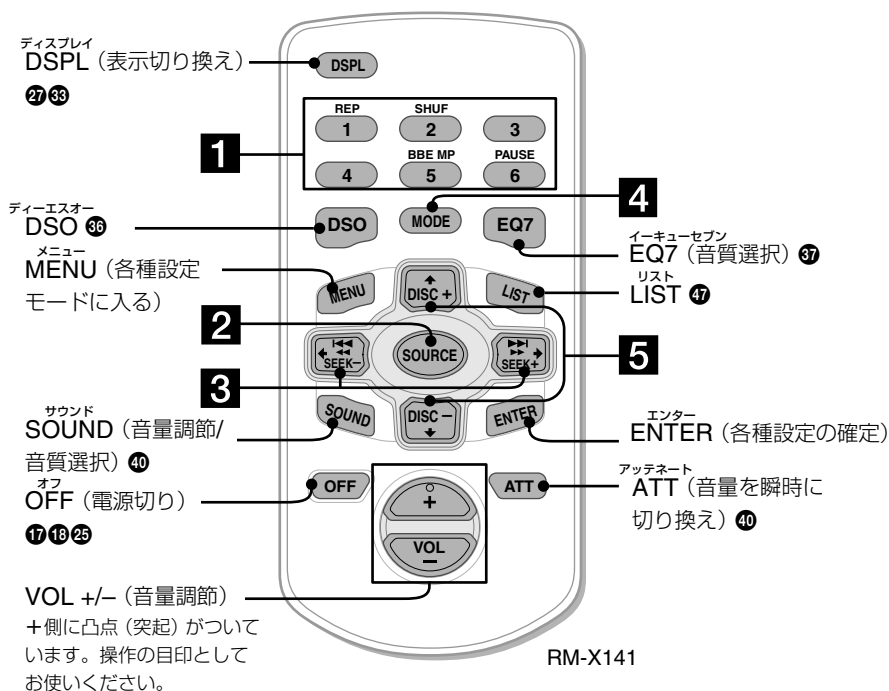
本機はMGS-X1をMDとして認識します。

*7 別売りのソニー製ポータブル機器が本機の外部音声入力端子に接続されているとき
(別売りのソニー製CD/MD機器を接続している場合は使用できません。ポータブル機器とCD/MDチェンジャーを同時に使う場合は、外部入力セクターをお使いください。)

カードリモコンの操作

くわしい説明は●内のページをご覧ください。

各種メニュー設定の操作は、カードリモコンで行います。



ご注意

OFFボタンを押し続けて電源をOFFにした場合、カードリモコンで操作することはできません。カードリモコンで操作するには、本体のOFFボタンを押し続けるかSOURCEボタンを押す、またはDISCを挿入して、本機の電源をONにしてください。

ちょっと一言

リチウム電池の交換のしかたについては「使用上のご注意」(61ページ)をご覧ください。

次のページへつづく

カードリモコンの操作 (つづき)

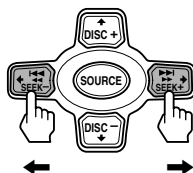
1 数字 (1~6) ボタン

ラジオ 放送局の登録/選択 32 35

CD/MD 1: REPボタン 30
2: SHUFボタン 31
5: BBE MPボタン*1 41
6: PAUSEボタン*1 17 25

2 SOURCE (ラジオ/CD/MD (MS*2) / AUX*3切り換え) 17 18 24 26 32 35 50

3 ←/→ (SEEK (AMS)) (ラジオ選局/頭出し)



ラジオ 周波数の低い 周波数の高い
放送局へ 放送局へ
(押し続ける) (押し続ける)
33 35 33 35

CD/MD 前の曲へ 次の曲へ
(短く押す) (短く押す)
早戻し 早送り
(押し続ける) (押し続ける)
26 26

バス 小さく 40 大きく 40

トレブル 小さく 40 大きく 40

バランス 左へ 40 右へ 40

フェーダー 後ろへ 40 前へ 40

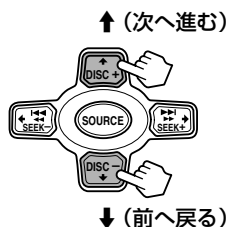
4 モード MODE

ラジオ FM1/FM2/AM1/AM2の
切り換え 32 35

CD/MD*4 CD/MD機器の選択 24 26

5 ↑/↓ (DISC/PRESET)

(プリセットサーチ/ディスク選択*4/アルバム選択*5/グループ選択*6/メニュー項目選択)



メニュー項目選択時に2秒以上押し続けると、メニュー項目のカテゴリーをスキップすることができます。

ラジオ 登録した局の選局 32 47

CD/MD ディスクの選択*3 25 47
(短く押す)
アルバムの選択*5 25
(短く押す) (長めに押す*7)
グループの選択*6 25
(短く押す) (長めに押す*8)

時刻の設定 進む (+) 23 戻る (-) 23

イコライザー 大きく (+) 小さく (-)
レベル調整 39 39

*1 本機でCDを再生するときのみ

*2 MS: MG-MSシステムアッププレーヤー
MGS-X1 (別売り)

本機はMGS-X1をMDとして認識します。

*3 別売りのソニー製ポータブル機器が本機の外部音声入力端子に接続されているとき
(別売りのソニー製CD/MD機器を接続している場合は使用できません。ポータブル機器とCD/MDチェンジャーを同時に使う場合は、外部入力セレクターをお使いください。)

*4 別売りのソニー製CD/MD機器が接続されているとき

*5 MP3ファイルを再生しているとき

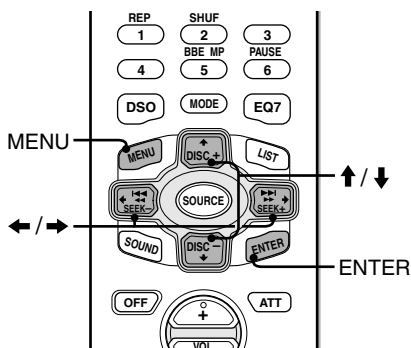
*6 グループ設定されたMDを再生しているとき

*7 別売りのソニー製CD機器が接続されているとき

*8 別売りのソニー製MD機器が接続されているとき

時計を合わせる

本機は12時間表示です。



ご注意

ACCポジションのないお車のときは、SOURCEボタンを押すかディスクを挿入して本機の電源を入れてから、時計を設定してください。

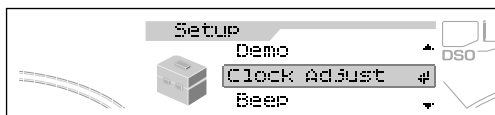
ちょっと一言

Clock機能を「on」に設定すると、再生中や受信中に常に時計を表示します。

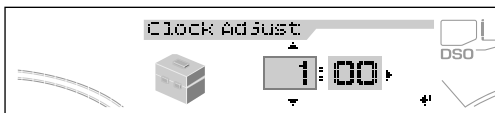
時計を合わせる

1 MENUボタンを押す。

2 ↑または↓ボタンを繰り返し押して、「Clock Adjust」を選ぶ。



3 ENTERボタンを押す。



- ① ↑または↓ボタンを繰り返し押して、「時」を合わせます。
- ② →ボタンを押して「分」の位置に移動し、↑または↓ボタンを繰り返し押して、「分」を合わせます。
↑ボタンを押すと数値が進み、↓ボタンを押すと数値が戻ります。

4 ENTERボタンを押す。

設定時刻が登録され、通常画面に戻ります。

CD/MP3・MDを聞く

本機の他に別売りのソニー製MP3対応CD機器またはMD機器を接続して、CD、MP3ファイル、MDを再生できます。本機またはCD TEXT対応のCD機器にてCD TEXTディスクを再生中に、その文字情報（アルバム名、アーティスト名、曲名など）を表示することができます。

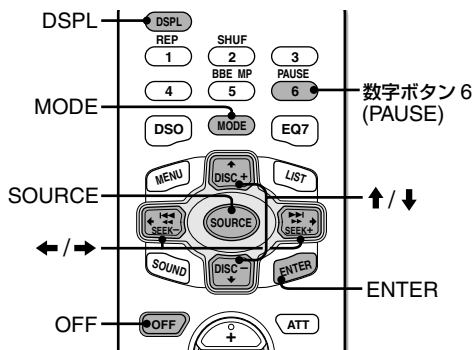
CD TEXTとは

アルバム名、アーティスト名、曲名などの文字情報を記録した音楽CDの呼称です。

- *1 MP3再生時のみ表示します。
- *2 グループ設定されたMDを本機に挿入して再生した時のみ表示します。
- *3 CD TEXTディスク、MP3ファイルまたはMD再生時のみ表示します。
- *4 別売りのソニー製CD/MD機器が接続されている場合のみ表示します。
- *5 MDLPディスクを再生時のみ表示します。
- *6 別売りのソニー製CD/MDチェンジャーが接続されていて、チェンジャー内のディスクを再生時のみ表示します。

ちょっと一言

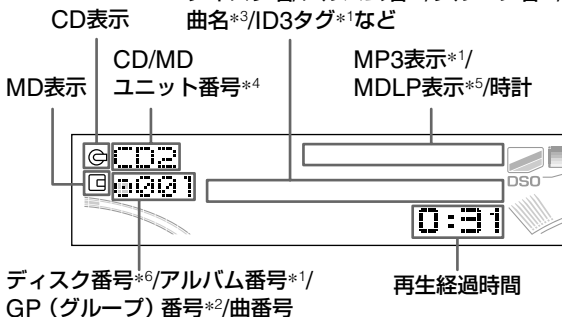
- ディスクの最後まで再生すると、最初の曲に戻ります。別売りのソニー製CD/MD機器を接続している場合は、同じソースのCD/MD機器内の次のディスクを再生します。
- 表示は画面モードの設定により異なります（48ページ）。ここでは、通常画面モードの表示について説明しています。



聞きたい機器を選ぶ

- 1 SOURCEボタンを繰り返し押して、「CD」または「MD」を選ぶ。

ディスク名/アルバム名^{*1}/グループ名^{*2}/
曲名^{*3}/ID3タグ^{*1}など



- 2 MODEボタンを繰り返し押して、聞きたいCD/MD機器（本機または別売りのソニー製CD/MD機器）を選ぶ。

CDの場合

CD1（本機）→ CD2（CD機器1）^{*4} →
CD3（CD機器2）^{*4} → … → CD1 →

MDの場合

MD1（本機）→ MD2（MD機器1）^{*4} →
MD3（MD機器2）^{*4} → … → MD1 →

ちょっと一言

- 一時停止が機能するのは、本機でCDを再生するときのみです。
- 数字ボタン6 (PAUSE) をもう一度押すと再生が始まります。

ちょっと一言

ディスクの最後まで再生すると、最初の曲に戻ります。別売りのソニー製CD/MD機器を接続している場合は、同じソースのCD/MD機器内の次のディスクを再生します。

オーディオCDデータまたは、MP3ファイル以外のディスク再生時のご注意

- 本機の場合は「NO Music」と表示した後、時計表示 (OFF) になります。
- MP3対応のCD機器の場合は「NO Music」と表示し、次のディスクを再生します。
- MP3未対応のCD機器の場合はCDと認識し無音再生します。

再生をやめるには

別のソースに切り換えるか、OFFボタンを押します。

一時停止するには

数字ボタン6 (PAUSE) を押します。

グループ設定されたMDのGP (グループ) を選ぶには

グループ設定されたMDを本機に挿入して、再生中に↑または↓ボタンを押す。

(別売りのソニー製MD機器を接続していない場合)

短く押すたびに、前のGPまたは次のGPIに1つずつ切り換わります。押し続けると連続して送れます。

(別売りのソニー製MD機器を接続している場合)

長く押して離すと、前のGPまたは次のGPIに切り換わります。押し続けると連続して送れます。

ボタンを離してから約2秒以内にボタンを押すと、押すたびに前のGPまたは次のGPIに1つずつ切り換わります。押し続けると連続して送れます。

CD/MDチェンジャー内の聞きたいディスクを選ぶには

CD/MDチェンジャー内のディスクを再生中に↑または↓ボタンを押す。

押すたびに、次のディスクまたは前のディスクに1枚ずつ切り換わります。

聞きたいアルバムを選ぶには

本機でMP3ファイルを再生している場合：

(別売りのソニー製CD機器を接続していない場合)

再生中に↑または↓ボタンを押す。

押すたびに次のアルバムまたは前のアルバムに1つずつ切り換わります。押し続けると連続して送れます。

(通常の音楽CD再生時は動作しません。)

CD/MP3・MDを聞く(つづき)

MP3再生時のご注意

- MP3再生時、初めにディスク内の情報(アルバム、トラック数など)を読み取るため、ファイル構造が複雑な場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。読み取り中は本機の表示窓に「Read」と表示されますので、完全に表示が消え、自動で再生が始まるまでお待ちください。
- 320kbpsなどの高ビットレートで記録されているMP3ファイル再生時には、音とびする場合があります。

別売りのソニー製MP3対応CDチェンジャーでMP3ファイルを再生している場合：

再生中に↑または↓ボタンを押す。

長く押しで離すと、前のアルバムまたは次のアルバムに切り換わります。長く押し続けると連続して送れます。ボタンを離してから約2秒以内にボタンを押すと、押すたびに前のアルバムまたは次のアルバムに1つずつ切り換わります。押し続けると連続して送れます。

聞きたい曲を選ぶには

再生中に←または→ボタンを押す。

短く押すたびに、次の曲または前の曲に1曲ずつ切り換わります。

ボタンを離してから約2秒以内にボタンを押すと、押すたびに次の曲または前の曲に1曲ずつ切り換わります。押し続けると連続して送れます。

曲の聞きたいところにするには

再生中に←または→ボタンを押し続けて、聞きたいところで離す。

ディスクの先頭または終わりに来ると

「|||」または「|||」が表示され、それ以上前、または先に進めることはできません。

MG-MSシステムアッププレーヤー MGS-X1(別売り)で再生するには

SOURCEボタンを繰り返し押して、「MS」または「MD^{*1}」を選ぶ。

「MS」の場合

MGS-X1の再生が始まります。

「MD」の場合

MODEボタンを繰り返し押して、「MS」を選びます。

例) MGS-X1をソースセクター(別売り)の入力端子に接続した場合、MODEボタンを押すごとに表示は次のように切り換わります。

MD1(本機) → MS(MGS-X1) →
MD3(MD機器2) ^{*2} → … → MD1

^{*1} 本機はMGS-X1を「MD」として認識します。

^{*2} 別売りのソニー製MD機器が接続されている場合のみ表示します。

ちょっと一言

- 本機で表示できない文字や記号は、「□」に置き換わります。
- CD TEXTに記録されていても、曲ごとのアーティスト名は表示されません。
- 「オートスクロールの設定」(29ページ)で「A.Scroll-on」にしておくと、ディスクやアルバム、曲が変わったときに自動的にスクロール表示させることができます。
- MP3ファイルのID3タグは「曲名/アーティスト名/アルバム名」の順に表示します。
- 表示は画面モードの設定により異なります(48ページ)。ここでは、通常画面モードの表示について説明しています。

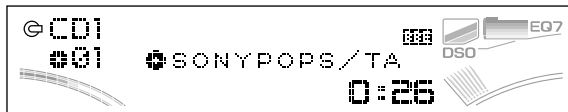
ご注意

- CDチェンジャー内のCDの曲名を表示することができるのはMP3対応機器でMP3ファイル再生時、またはCD TEXT対応機種でCD TEXTディスク再生時のみです。
- CD TEXTディスクまたはID3タグで極端に文字数が多く入っている場合、すべての文字を表示しなかったりスクロールしないことがあります。
- MP3再生時、次の場合には再生経過時間表示が実際と異なることがあります。
 - VBR (Variable Bit Rate) : 可変ビットレート) のMP3ファイルを再生したとき
 - 早送り、早戻し(手動サーチ)をしたとき

表示窓の見かた

再生中にDSPLボタンを繰り返し押して、表示を切り換えます。長い名前は表示を切り換えた後に、自動的にスクロールします。

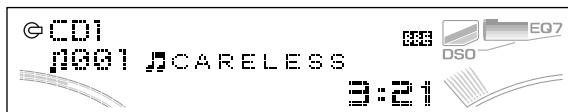
CD 再生の場合



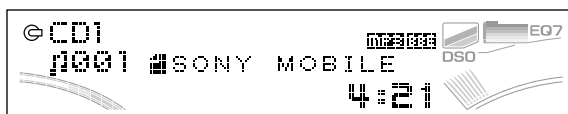
ディスク番号、ディスク名*1*2/アーティスト名*3、再生経過時間



アルバム番号、アルバム名(MP3のみ)、再生経過時間

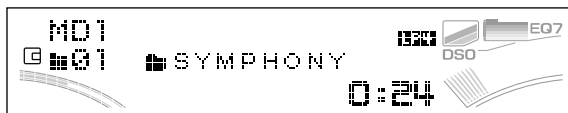


曲番号、曲名*1 (CD TEXT、MP3、MDのみ)、再生経過時間



曲番号、ID3タグ*4 (MP3のみ)、再生経過時間

MD 再生の場合



グループ番号、グループ名*5、再生経過時間

次のページへつづく

CD/MP3・MDを聞く(つづき)

- *1 ディスク名、曲名がついていないときは、それぞれ「NO Disc Name」、「NO Track Name」と表示された後、再生経過時間表示になります。
- *2 CD TEXTにディスクメモ機能で名前をつけてあるときは、ディスクメモ(44ページ)の名前を表示します。
- *3 CD TEXTディスクにアーティスト名が記録されている場合のみ表示します。
- *4 MP3にID3タグがついていないときは、「NO ID3 Tag」と表示された後、再生経過時間表示になります。
ID3タグはver.1.0、1.1、2.2、2.3、2.4に対応しています。
表示可能な文字コードはASCII、全角漢字(Shift-JIS)と半角カナ(JolietフォーマットのときはASCIIのみ)で、それ以外の文字は「□」で表示します。
アルバム(フォルダー名)、曲(ファイル名)は、それぞれ最大で32文字(Joliet)、64文字(Romeo)、ID3タグは30文字(ver.1.0、1.1、2.2、2.3)、126文字(ver. 2.4)まで表示します。
ID3タグは曲名/アーティスト名/アルバム名を表示します。
使用されている文字コードによっては、文字が正しく表示されないことがあります。
- *5 グループ名がついていないときは「NO Group Name」と表示された後、再生経過時間表示になります。

MDLP表示について

録音モードにより、MD再生時の表示が換わります。

LP2 : LP2ステレオ再生時
LP4 : LP4ステレオ再生時
表示なし : ステレオ/モノラル再生時



で注意

スクロールするのは、
DSPLボタンで選んだ名前
のみです。

オートスクロールの設定

オートスクロールの設定を「on」にしておくと、以下の場合に12文字以上の名前を自動的にスクロール表示させることができます。

CD TEXTディスク、MP3またはMDを再生中：

- － ディスクまたは曲が切り換わったとき
- － SOURCEをCDまたはMDにしたとき

1 CDまたはMDの再生中に、MENUボタンを押す。

2 ↑または↓ボタンを繰り返し押して、「A.Scroll」を表示させる。



3 →ボタンを押して「A.Scroll-on」を選ぶ。

4 ENTERボタンを押す。

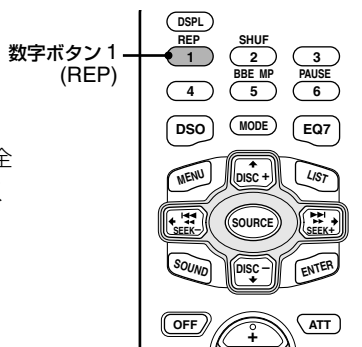
通常の画面が表示されます。

オートスクロールを解除するには

手順3で「A.Scroll-off」を選びます。

繰り返し聞く (リピート再生)

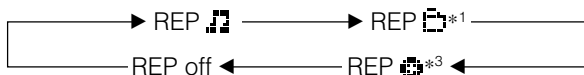
再生中の曲のみ、グループ/アルバム内の全曲またはディスク内の全曲を繰り返し聞くことができます。



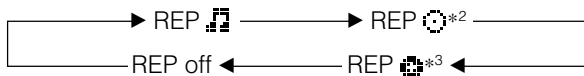
CDまたはMDを再生中に数字ボタン1 (REP) を繰り返し押し、再生モードを選ぶ。

押すごとに、表示は次のように切り換わります。

MDを再生しているとき



CDを再生しているとき



- 再生中の曲を繰り返すには
.....「REP [Track Icon] (Repeat Track)」にする。
- 再生中のグループ内の全曲を繰り返すには
.....「REP [Group Icon] (Repeat Group)」*1にする。
- 再生中のアルバム内の全曲を繰り返すには
.....「REP [Album Icon] (Repeat Album)」*2にする。
- 再生中のディスク内の全曲を繰り返すには
.....「REP [Disc Icon] (Repeat Disc)」*3にする。

*1 グループ設定されたMDを本機で再生しているとき。

*2 MP3ファイルを再生しているとき。

*3 別売りのソニー製CD/MD機器を接続しているとき。

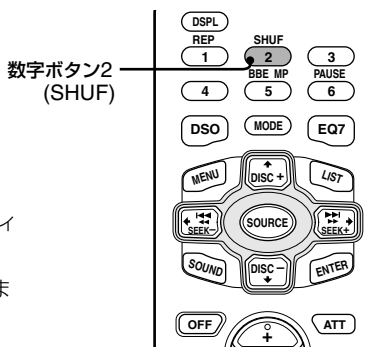
リピート再生をやめるには

数字ボタン1 (REP) を繰り返し押し、「REP off」を選びます。

曲順を変えて 聞く

(シャッフル再生)

再生中のグループ/アルバム内の全曲、ディスク内の全曲またはチェンジャー内の全ディスクの曲順を変えて聞くことができます。



ご注意

「SHUF All」でCDとMDを混ぜてシャッフル再生することはできません。

ちょっと一言

「SHUF (Shuffle Changer)」、「SHUF All」では、同じ曲が2度以上再生されることがあります。

CDまたはMDを再生中に数字ボタン2 (SHUF) を繰り返し押し、再生モードを選ぶ。

押すごとに、表示は次のように切り換わります。

MDを再生しているとき



CDを再生しているとき



- 再生中のグループ内の全曲を順不同に再生するには
.....「SHUF (Shuffle Group)」*¹にする。
- 再生中のアルバム内の全曲を順不同に再生するには
.....「SHUF (Shuffle Album)」*²にする。
- 再生中のディスク内の全曲を順不同に再生するには
.....「SHUF (Shuffle Disc)」にする。
- 再生中のチェンジャー内の全ディスクを順不同に再生するには
.....「SHUF (Shuffle Changer)」*³にする。
- 再生中のソース (CDまたはMD) のすべての機器の全ディスクを順不同に再生するには
.....「SHUF All」*³にする。

*¹ グループ設定されたMDを本機で再生しているとき。

*² MP3ファイルを再生しているとき。

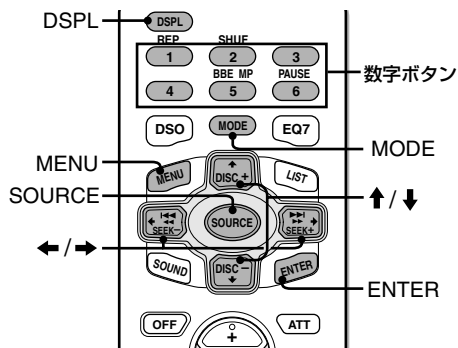
*³ 別売りのソニー製CD/MD機器を接続しているとき。

シャッフル再生をやめるには

数字ボタン2 (SHUF) を繰り返し押し、「SHUF off」を選びます。

放送局を自動で登録する

受信状態のよい放送局を自動的に登録することができます。「FM1」、「FM2」、「AM1」、「AM2」のそれぞれに6局ずつ、合わせてFM、AM各12局ずつ登録できます。



ちょっと一言

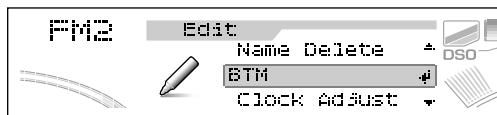
手順2でMODEボタンを押すごとに
FM1 → FM2 → AM1 →
AM2 → FM1
と切り換わります。

ご注意

- 放送局の数が少ない場合や電波が弱いときは、登録されないことがあります。
- 登録番号が表示されていたときは、それ以降の登録番号に登録されます。

受信状態の良い放送局を設定する

- 1 SOURCEボタンを繰り返し押して、ラジオ受信にする。
- 2 MODEボタンを繰り返し押して、登録したい放送局のバンドに切り換える。
- 3 MENUボタンを押す。
- 4 ↑または↓ボタンを繰り返し押して、「BTM」を選ぶ。



- 5 ENTERボタンを押す。

「BTM」(ベストチューニングメモリー) が点滅表示し、選んだバンドの中で受信状態の良い放送局が周波数の順に登録されます。

登録が終わると通常の画面が表示されます。

登録した放送局を聞くには

ラジオ受信中にMODEボタンを繰り返し押してバンドを選び、数字ボタン、↑または↓ボタンを押して聞きたい放送局を選ぶ。

ちょっと一言

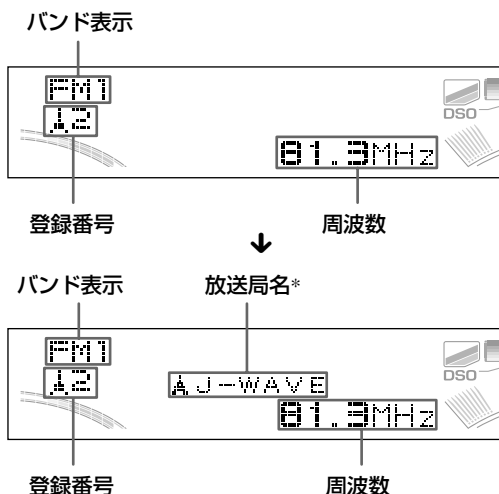
表示は画面モードの設定により異なります(48ページ)。ここでは、通常画面モードの表示について説明しています。

ちょっと一言

- ◀または▶ボタンを押し続けて聞きたい放送局の周波数に近付いたところで、一度離します。さらに繰り返し短く押していくと0.1MHz(または9kHz)ごとに送れます。
- ローカル受信中は、放送局を探している間「Local Seek +/-」と表示されます。

表示窓の見かた

ラジオ受信中にDSPLボタンを繰り返し押して、表示を切り換えます。



* 名前がついていないときは、「NO Name」と表示されます。
名前の登録のしかたについては、44ページをご覧ください。

旅先などで、登録した放送局が受信できないときは

ラジオ受信中に◀または▶ボタンを押して離します。自動的に放送局を探し始め、受信すると止まります。聞きたい放送局が受信できるまで繰り返します。

- 聞きたい放送局がわかっているときは、その放送局の周波数になるまで◀または▶ボタンを押し続けます。
- 自動選局がたびたび止まってしまうときは、ローカル受信にすると、比較的電波の強い放送局だけを受信します。
 - 1 ラジオ受信中にMENUボタンを押す。
 - 2 ↑または↓ボタンを繰り返し押して、「Local」を選ぶ。
 - 3 ▶ボタンを押して「Local-on」を選び、ENTERボタンを押す。

通常の受信に戻すには

手順3で「Local-off」を選びます。

放送局を自動で登録する(つづき)

ちょっと一言

FM放送が聞きにくいときは、DSO設定を「DSO OFF」にすると聞きやすくなります(36ページ)。

ご注意

IF Autoモードを「IF-Wide」にして雑音が入り聞きにくい場合は、「IF-Auto」に設定してください。

ステレオ放送が聞きにくいときは

ステレオ放送が聞きにくいときは、音をモノラルにすると聞きやすくなります。

- 1 FM受信中にMENUボタンを押す。
- 2 ↑または↓ボタンを繰り返し押して、「Mono」を選ぶ。
- 3 →ボタンを押して「Mono-on」を選び、ENTERボタンを押す。

通常の受信に戻すには

手順3で「Mono-off」を選びます。

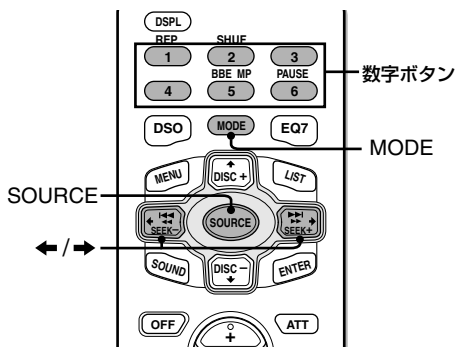
受信周波数帯域幅を自動的に調整する(IF Autoモード)

FM受信中、受信している周波数の近くに他の放送局があると、他の放送局の混信による雑音で放送が聞きにくくなることがあります。この場合「IF-Auto」に設定すると、受信する周波数帯域幅を自動的にせばめて放送が聞きやすくなります。このためステレオ放送がモノラルになることがあります。このような場合でもIF Autoモードを「IF-Wide」に固定するとステレオで聞くことができます。

- 1 FM受信中にMENUボタンを押す。
- 2 ↑または↓ボタンを繰り返し押して、「IF-Auto」を選ぶ。
- 3 →ボタンを押して「IF-Wide」を選び、ENTERボタンを押す。

放送局を手動で登録する

お好みの放送局を手動で登録することができます。



ご注意

すでに登録してある番号に同じバンドの他の放送局を登録すると、前の放送局の登録は消去されます。

ちょっと一言

- 手順2でMODEボタンを押すごとに
FM1 → FM2 → AM1 → AM2 → FM1
と切り換わります。
- ←または→ボタンを押して続けて聞きたい放送局の周波数に近付いたところで、一度離します。さらに繰り返し短く押していくと0.1MHz（または9kHz）ごとに送れます。
- 「FM1」、「FM2」、「AM1」および「AM2」のそれぞれに6局ずつ、合わせてFM、AM各12局ずつ設定できます。

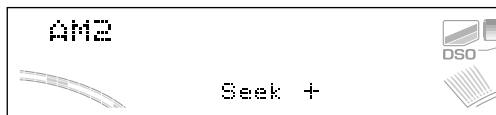
1 SOURCEボタンを繰り返し押して、ラジオ受信にする。

2 MODEボタンを繰り返し押して、登録したい放送局のバンドに切り換える。

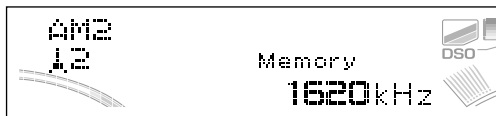
3 **A** 聞きたい放送局の周波数がわかっているとき
その放送局の周波数になるまで←または→ボタンを押し続ける。

B 聞きたい放送局の周波数がわからないとき
←または→ボタンを押して離す。

自動的に放送局を探し始め、受信すると止まります。聞きたい放送局が受信できるまで繰り返します。



4 登録したい数字ボタンを「Memory」が表示されるまで2秒以上押し続ける。

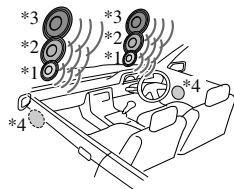


押した数字ボタンの番号が表示され、その番号に選んだ放送局が登録されます。

DSOを設定する

スピーカーがドアの下部に設定されている場合は音が足元からこもって聞こえてきたり、左右の音が干渉して濁りがちです。そこでDSO（ダイナミック・サウンドステージ・オーガナイザー）機能により、ダッシュボード上にスピーカー（バーチャルスピーカー）があるかのようにサウンドが鳴り響いてくる音場感を楽しめます。

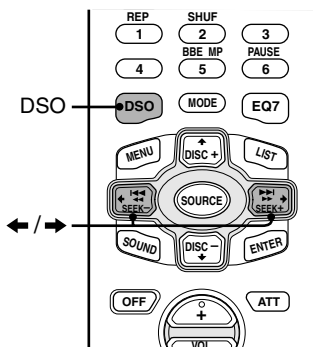
バーチャルスピーカーのイメージ



- *1 DSO 1
- *2 DSO 2
- *3 DSO 3
- *4 DSO OFF

ちょっと一言

- FM放送が聞きにくいときは、DSO設定を「DSO OFF」にすると聞きやすくなります。
- 車種やお聞きの曲により、DSOの効果がわかりにくい場合があります。
- DSOの設定は各ソースごとに自動的に記憶されます。

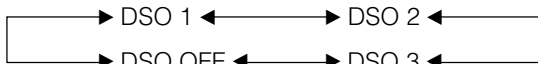


1 設定したいソース（CD、MD、ラジオ、AUXなど）を再生/受信する。

2 DSOボタンを繰り返し押して、DSOモードを選ぶ。

DSOボタンを押した後、←または→ボタンでDSOモードを選ぶこともできます。

押すごとに、DSOモードは次のように切り換わります。



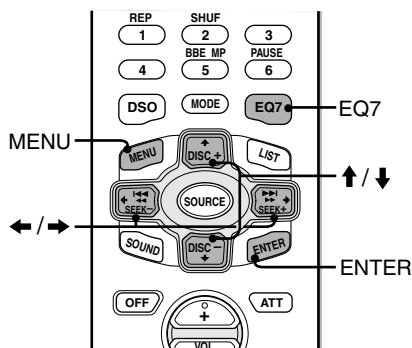
約3秒後に、通常の画面が表示されます。

DSOを解除するには

手順2で「DSO OFF」を選びます。

イコライザーを使う (EQ7)

本機には音楽のジャンルに合わせた7種類のイコライザーカーブが用意されています。また、それらにお好みの変更を加えたイコライザーカーブを登録できます。



ご注意

DSOの設定中は、DSOの効果を最適化するためにイコライザーの効果を抑えています。

ちょっと一言

イコライザーの設定は各ソースごとに自動的に記憶されます。

イコライザーカーブを選ぶ

1 設定したいソース (CD、MD、ラジオ、AUXなど) を再生/受信する。

2 EQ7ボタンを繰り返し押して、イコライザーカーブを選ぶ。

EQ7ボタンを押した後、←または→ボタンでイコライザーカーブを選ぶこともできます。押すごとに、イコライザーカーブは次のように切り換わります。

→ Xplod ↔ VOCAL ↔ CLUB ↔ JAZZ ↔
→ OFF ↔ CUSTOM ↔ ROCK ↔ NEWAGE ↔



約3秒後に、通常の画面が表示されます。

イコライザーを解除するには
手順2で「OFF」を選びます。

[次のページへつづく](#)

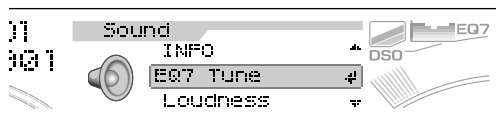
イコライザーを使う(つづき)

ご注意

「OFF」では、イコライザーカーブの調節はできません。

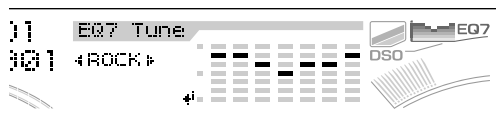
好きなイコライザーカーブを登録する

- 1 設定するソース (CD、MD、ラジオ、AUXなど) を再生/受信する。
- 2 MENUボタンを押す。
- 3 ↑または↓ボタンを繰り返し押して、「EQ7 Tune」を選ぶ。



- 4 ENTERボタンを押す。

- 5 ←または→ボタン (またはEQ7ボタン) を繰り返し押して、イコライザーカーブを選ぶ。



- 6 ENTERボタンを押す。

- 7 ←または→ボタンを繰り返し押して、周波数を選ぶ。

押すごとに、周波数は次のように切り換わります。

62Hz ↔ 157Hz ↔ 396Hz ↔ 1.0kHz ↔
2.5kHz ↔ 6.3kHz ↔ 16kHz



ちょっと一言

レベルの調整可能範囲は
±10dBです。

8 ↑または↓ボタンを繰り返し押して、レベルを調整する。

手順7と8を繰り返して、イコライザーカーブを調節します。



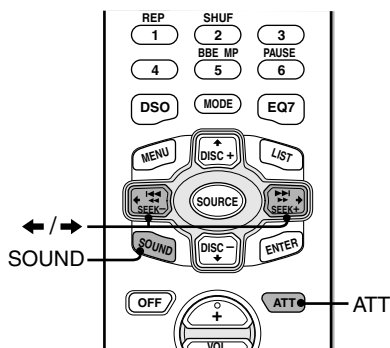
9 ENTERボタンを押す。

各プリセットを初期設定(工場出荷状態)にするには
手順7または8でENTERボタンを2秒以上押し続けます。

音のバランスや音質を設定する

(バス) (トレブル) (バランス)
(フェーダー) (ATT)

BASS (低音)、TREBLE (高音) の音質の調節、BALANCE (左右)、FADER (前後) のスピーカー出力のバランスを調節することができます。



ちょっと一言

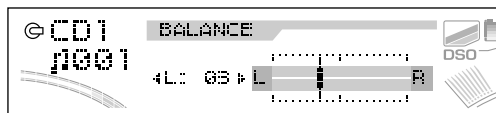
- SOUNDボタンを押すごとに
BASS → TREBLE →
BALANCE → FADER →
通常画面 → BASS
と切り換わります。
- BASS、TREBLE、
BALANCE、FADERは
ソースごとに設定すること
はできません。

1 ソース (CD、MD、ラジオ、AUXなど) を再生/受信する。

2 SOUNDボタンを繰り返し押して、「BASS」、「TREBLE」、「BALANCE」または「FADER」を選ぶ。

3 ←または→ボタンを繰り返し押して、設定を調節する。

バランス (BALANCE) の設定表示



約3秒後に、通常の画面が表示されます。

ちょっと一言

本機のナビ用ATT入力端子とソニー製カーナビシステムとを接続していると、カーナビシステムの設定により、音声案内時は自動的にカーステレオの音量が下がります。(ナビATT機能)

音量を瞬時に小さくする

ATTボタンを押す。

「ATT on」と表示され、自動的に音量を下げます。

もとの音量に戻すには、ATTボタンをもう一度押します。
「ATT off」と表示され、もとの音量に戻ります。

ソースごとに音響効果を記憶する

本機ではソース (FM、AM、CD、MD、AUX) ごとにDSOやイコライザーの設定を自動的に記憶しています (ソースサウンドメモリー)。それぞれのソースに合わせた最適な音質で再生することができます。

BBE MPの設定を変更する

BBE MPプロセスはデジタル圧縮技術によって失われた高調波を修復、補修することにより、MP3などのデジタル圧縮された音声の音質を改善します。

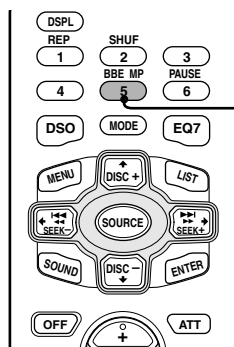
BBE MPは、最適量の偶数次高調波と奇数次高調波をもとの音から作り出し原音に加えることにより、効果的にやわらかさ、ディテール、ニュアンスなどを再現します。

ご注意

BBE MPが機能するのは、本機でCDを再生するときのみです。

ちょっと一言

BBE MPの設定は、本機でCDを再生するときのみ切り換えることができます。



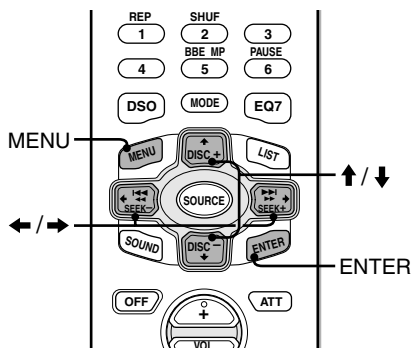
数字ボタン5
(BBE MP)

本機でCDを再生中に数字ボタン5（BBE MP）を押して、「BBE MP on」を選ぶ。

BBE MPを解除するには

数字ボタン5（BBE MP）を繰り返し押して「BBE MP off」を選びます。

音や表示などの設定を換える



ちょっと一言

メニュー項目選択時に↑または↓ボタンを2秒以上押し続けると、メニュー項目のカテゴリーをスキップすることができます。

Setup: 一般設定
Display: 表示の設定
Receive Mode: 受信の設定
Sound: 音質/音響の設定
Edit: 表示文字の設定

ご注意

選べるメニュー項目はソースによって異なります。

- *1 内蔵アンプを使用せず、別売りのアンプを使用した場合は「ピッ」という音は出ません。
- *2 ソースの再生/受信の停止中のみ表示します。
- *3 別売りのソニー製CD/MD機器が接続されていない場合のみ表示します。
- *4 ソースを再生/受信中の場合のみ表示します。
- *5 CDまたはMDを再生時のみ表示します。

Setupメニュー

設定の種類	設定内容
Clock Adjust	時計の設定 (23ページ)。
Beep* ¹	操作ボタンを押したときの「ピッ」という音をon/offする。
AUX-A* ^{2*3}	SOURCEボタンを押した時の「AUX」の表示の有無を設定する (50ページ)。 「on」→ ソースメニューにAUXを表示する。 「off」→ ソースメニューにAUXを表示しない。

Displayメニュー

設定の種類	設定内容
Clock* ⁴	再生/受信中に常に時計を表示する。
Dimmer	表示窓の減光を設定する。 「Auto」→ 車の照明をONにすると表示が減光する。(車の照明電源に接続されている場合のみ) 「on」→ 車の照明に関係なく表示が減光する。 「off」→ 車の照明に関係なく表示が減光しない。
A.Scroll* ⁵	MP3、CD TEXTまたはMDの表示を自動的にスクロールさせる (29ページ)。
A.Image* ⁴	画面モードに登録されている画像を自動で切り換える (49ページ)。
Demo* ²	再生/受信の停止中にデモを表示する。
INFO* ⁴	画像の表示中に表示窓の下に表示される文字の有無を設定する。 「on」→ 文字を表示する。DSPLボタンを押すと表示文字が切り換わる。 「off」→ 文字を表示しないで、画像のみを表示する。

ご注意

選べるメニュー項目はソースによって異なります。

ちょっと一言

メニュー項目選択時に↑または↓ボタンを2秒以上押し続けると、メニュー項目のカテゴリーをスキップすることができます。

*⁶ ソースがAUXの場合のみ設定できます。

ちょっと一言

- メニュー設定中に、選択可能なカーソルボタンを示す「▲」が表示されます。
- 設定項目を選択した後、ENTERボタンを押す必要があるときは「▶」が点灯します。
- 選択をキャンセルするには、手順3の前にMENUボタンを押します。

Receive Modeメニュー

設定の種類	設定内容
Local	電波の強い放送局を受信する (33ページ)。
Mono	ステレオFM放送をモノラルにする (34ページ)。
IF-Auto/Wide	受信周波数を自動的に調整する (34ページ)。

Soundメニュー

設定の種類	設定内容
EQ7 Tune	イコライザーカーブを調節する (38ページ)。
Loudness	音のバランスを補正して、小音量でも低音と高音を聞きやすくする。
AUX Level* ⁶	外部音声入力 (AUX IN) に接続した機器の出力レベルを設定する (50ページ)。

Editメニュー

設定の種類	設定内容
Name Edit	ディスクや放送局に名前をつける (44ページ)。
Name Delete	名前をつけたディスク名や放送局名を消去する (46ページ)。
BTM	受信状態のよい放送局を自動的に登録する (32ページ)。

設定を換える

1 MENUボタンを押す。

デモを設定するには、OFFボタンを押し、MENUボタンを押す。

A.Scrollを設定するには、CDまたはMDを再生中にMENUボタンを押す。

2 ↑または↓ボタンを繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

3 ←または→ボタンを押して調節したい設定にする。

(例: 「on」または「off」)

4 ENTERボタンを押す。

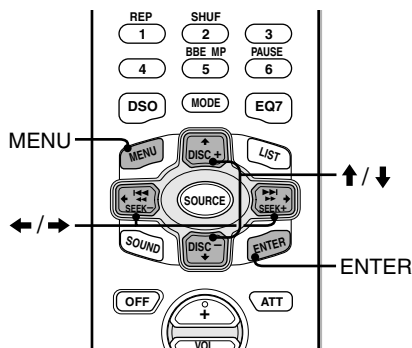
ディスク/放送局 に名前をつける

(カスタムファイルディスクメモ) (ステーションメモ)

カスタムファイルとは？

CDソフトのタイトル名を登録・表示する機能です。別売りのカスタムファイル対応のソニー製CD機器を接続すると、CDに8文字までの名前をつけられ、ディスクメモやリスト機能を楽しむことができます。

放送局に名前をつけると、受信中にその名前を表示することができます。最大62の放送局に、それぞれ8文字までの名前をつけられます。



ご注意

- CDの名前は、カスタムファイル対応のCDチェンジャーに登録されます。カスタムファイル非対応のCDチェンジャーを接続した場合、ディスクメモ、リスト機能は操作できません。
- ディスクメモ入力中は自動的にディスクリプレイになります。その間、「REP Track」やシャッフル再生は保留されます。

1 名前をつけたいCDを再生、または放送局を受信する。

2 MENUボタンを押す。

3 ↑または↓ボタンを繰り返し押して、「Name Edit」を選ぶ。



4 ENTERボタンを押す。



ちょっと一言

- ↑ボタンを押すごとに
A → B → ... Z →
0 → 1 → ... 9 → + → -
→ * → / → \ → > → <
→ , → (スペース) → A
と換わります。↓ボタンを押すと、逆順に表示されます。
- アルファベットの小文字とカナは使用できません。
- 入力を間違えたときは、←ボタンを押して修正したい文字を点滅させ、正しい文字を入れ直します。
- 手順2、3、4の代わりにLISTボタンを2秒以上押し続けても、名前の入力モードになります。
手順6の代わりにLISTボタンを2秒以上押し続けても、操作を完了させることができます。

- 5 ↑または↓ボタンを繰り返し押しして入力する文字を選び、→ボタンを押して次の文字に移動させる。



スペースを入れたいときは、続けて→ボタンを押します。

- 6 手順5を繰り返して、名前を入力し終えたらENTERボタンを押す。

通常の画面が表示されます。

次のページへつづく

ディスク/放送局に名前をつける (つづき)

ご注意

- ディスク名の消去は、名前が登録されているCDチェンジャーでCDを再生しないとできません。
- 消去したい名前が見つからないときは、他のCDチェンジャーでCDを再生してください。

ちょっと一言

- 「ディスク/放送局に名前をつける」(44ページ)の手順5で、すべての文字に「 」(スペース)を入力して名前を消去することもできます。
- 名前がすべて消去された場合は、手順3、5で「NO Data」と表示された後、通常の画面に戻ります。

名前を消去するには

1 カスタムファイル対応のCDチェンジャーでCDを再生中、またはラジオの受信中にMENUボタンを押す。

2 ↑または↓ボタンを繰り返し押して、「Name Delete」を選ぶ。



3 ENTERボタンを押す。

4 ↑または↓ボタンを繰り返し押して、消去するディスク名または放送局名を選ぶ。



5 ENTERボタンを2秒以上押し続ける。

選択したディスク名または放送局名が消去されます。ほかの名前を消去するには、手順4、5を繰り返します。

6 MENUボタンを2回押す。

通常の画面が表示されます。

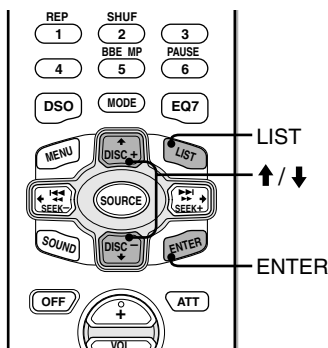
ディスク/放送局 を名前で探す (リスト)

次の場合に名前を見ながら好きなディスクを選ぶことができます。

- 別売りのCD TEXT対応ソニー製CDチェンジャーでCD TEXTディスクを再生する場合
- 別売りのカスタムファイル対応ソニー製CDチェンジャーでCDを再生する場合*
- 別売りのMP3対応ソニー製CDチェンジャーでMP3ファイルを再生する場合*
- 別売りのソニー製MDチェンジャーでディスク名の記録されているMDを再生する場合

* ディスクメモ機能 (44ページ) で名前をつけてからこの機能をお使いください。

また、放送局に名前をつけておくと、名前を見ながら放送局を探すことができます。放送局に名前をつけるときは、44ページをご覧ください。



ご注意

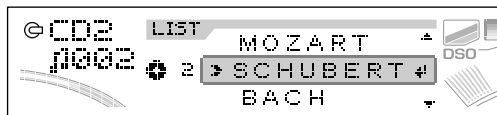
- ディスク名のリスト画面には、次の表示が出ることがあります。
 - 「-----」：ディスクが入っていない。
 - 「.....」：
 - 名前をつけていない。
 - CD TEXT対応の機器でCD TEXTでないCDを再生したとき。
 - 「?」：ディスク情報をまだ読み込んでいない。
- CD TEXTディスクで極端に文字数が多く入っている場合、すべての文字を表示しないことがあります。

ちょっと一言

- 選択をキャンセルするには、手順3の前にLISTボタンを押します。
- 現在再生中のディスク名または受信中の放送局名の左側には、「▶」が表示されます。

1 CD/MDチェンジャー内のディスクを再生中、またはラジオの受信中にLISTボタンを押す。

ディスク名またはプリセット局のリストが表示されます。



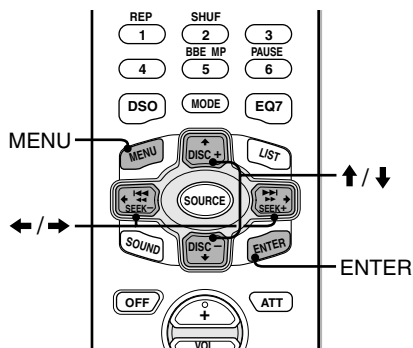
2 ↑または↓ボタンを繰り返し押して、聞きたいディスク名または放送局名を選ぶ。

3 ENTERボタンを押す。

画面モード・表示 画像を設定する

画面モードは、スペースプロデューサー・壁紙・スペクトラムアナライザー(SA)・動画の4種類です。

また、壁紙・スペクトラムアナライザー・動画の3種類の画面モードに登録されている画像のうち、お好みで1つの画像を設定することができます。



スペースプロデューサーとは

再生中の楽曲イメージに合わせ、ディスプレイの画像表現やLEDインジケーターの色が変化する機能。十字ラインは楽曲の音量やテンポに合わせ変化します。

ちょっと一言

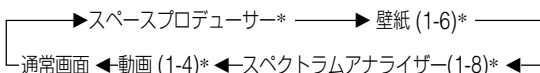
スペースプロデューサー設定時以外では中央部のインジケーターの色は常に青く光ります。

- * スペースプロデューサー
：1種類
壁紙
：6種類
スペクトラムアナライザー
：8種類
動画
：4種類
が登録されています。

表示画像を設定する

- 1 ソース (CD、MD、ラジオ、AUXなど) を再生/受信する。
- 2 本体のIMAGEボタンを繰り返し押して、表示画像を選ぶ。

IMAGEボタンを押すごとに、表示画像は次のように切り換わります。



壁紙モードの表示



表示画像を解除するには
手順2で通常画面を選びます。

ご注意

Auto Image モードの初期設定は、「A.Image-off」です。

ちょっと一言

- Auto Imageモードを設定した場合、本体のIMAGEボタンを押して表示画像を切り換えることはできませんが、数秒後にもとのAuto Imageモードに戻ります。1つの画像のみを表示したい場合、「A.Image-off」に設定してください。
- INFOモードを「off」に設定すると、表示窓の下に表示される文字を消去して、画像のみを表示できます(42ページ)。

Auto Imageモードを設定する

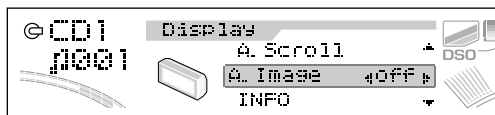
Auto Imageモードは画面モードに登録されている画像を、10秒おきに自動で切り換えます。

- A.Image-SA ... スペクトラムアナライザー (1-8) を繰り返し表示する。
- A.Image-Movie ... 動画 (1-4) を繰り返し表示する。
- A.Image-ALL ... 全ての画面モードのすべての画像を順不同に、繰り返し表示する。

1 ソース (CD、MD、ラジオ、AUXなど) を再生/受信する。

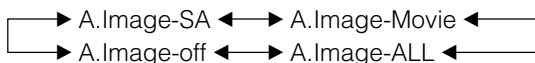
2 MENUボタンを押す。

3 ↑または↓ボタンを繰り返し押して、「A.Image」を選ぶ。



4 ←または→ボタンを繰り返し押して、設定したいモードを選ぶ。

押すごとに、表示は次のように切り換わります。



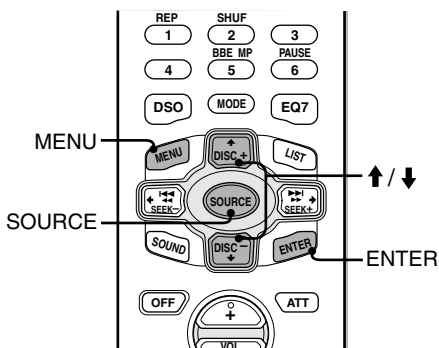
5 ENTERボタンを押す。

Auto Imageモードを解除するには
手順4で「A.Image-off」を選びます。

ポータブル機器 の音声を聞く

本機の外部音声入力 (AUX IN) 端子は、バス音声入力 (BUS AUDIO IN) 端子と兼用です。別売りのソニー製CD/MD機器の代わりに、DVDポータブルプレーヤー (別売り) などを接続し、その音声を車のスピーカーから聞くことができます。

(「AUX-Lite」機能)



ご注意

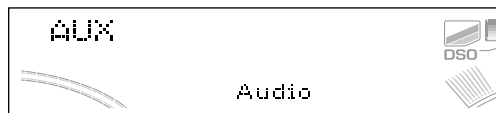
- 別売りのソニー製CD/MD機器を接続するとポータブル機器は接続できません。ポータブル機器とCD/MDチェンジャーを同時に使う場合は、外部入力セレクターをお使いください。
- ソースが「AUX」時に音量を上げ過ぎると、他のソースに切り換えたとき思わぬ大音量になることがあります。

ちょっと一言

- SOURCEボタンを繰り返し押し押しても「AUX」表示にならない場合は、「音や表示などの設定を換える」(42ページ)の「AUX-A」設定を「on」にしてください。
- 本機に接続した機器によって音量調整は異なります。
- 出力レベルの調整可能範囲は±6dBです。

ソースを設定する

SOURCEボタンを繰り返し押して、「AUX」を選ぶ。



出力レベルを調整する

1 ソースが「AUX」のときに、MENUボタンを押す。

2 ↑または↓ボタンを繰り返し押して、「AUX Level」を選ぶ。



3 ENTERボタンを押す。

4 ↑または↓ボタンを繰り返し押して、接続した機器に合わせて出力レベルを調節する。



5 ENTERボタンを押す。

取り付け部品を確認する

取り付け部品（付属品）

① ⊕ K5×8



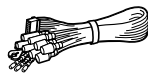
×6

② ⊕ T5×8



×6

③ 電源コード



接続する

接続する前に

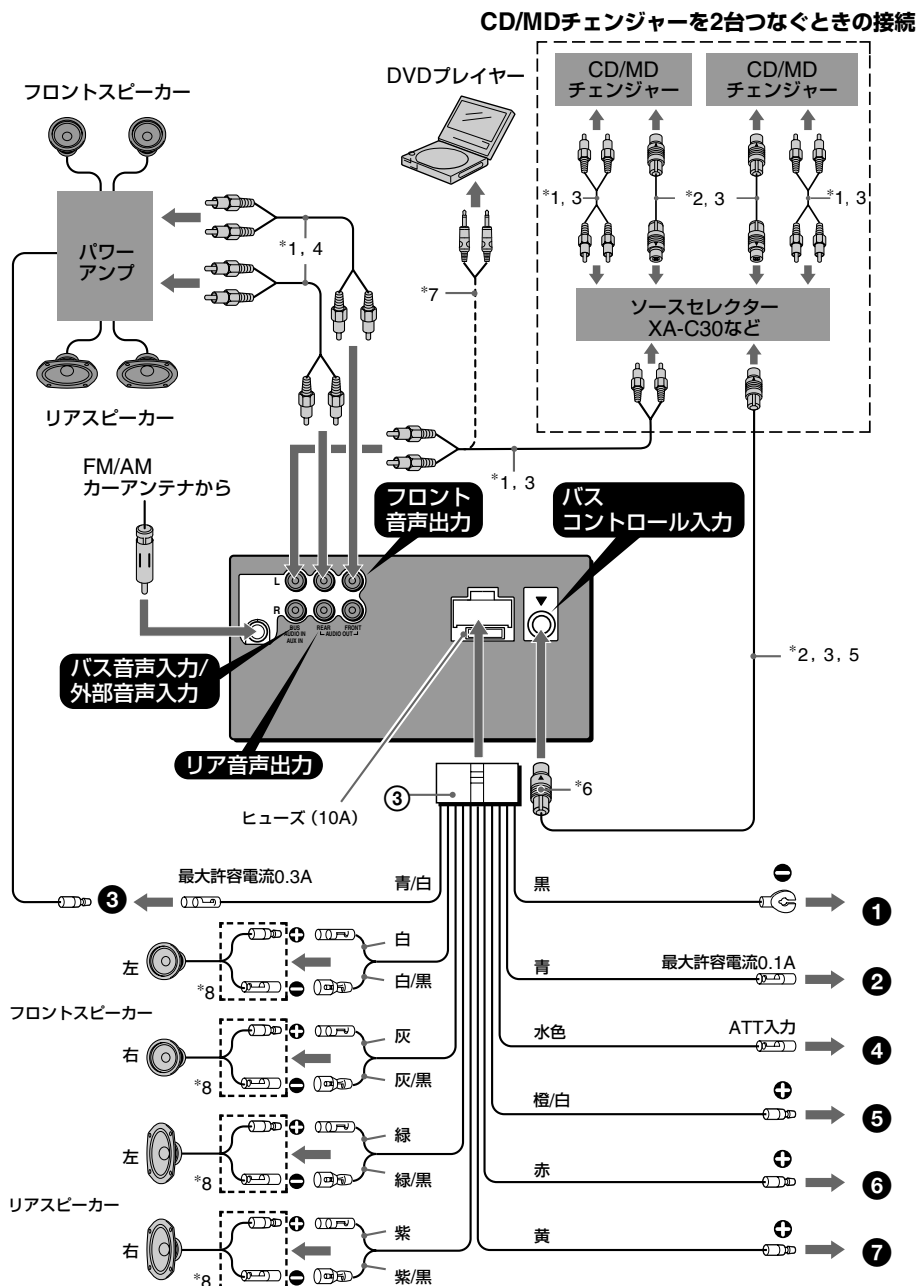
- この「取り付けと接続」に記載されている取り付け、接続先の機器は、付属品を除きすべて別売品です。接続の際は、必ず接続先の機器に付属の説明書もあわせてご覧ください。
別売品の仕様については、お客様ご相談センターまたはお買い上げ店にご相談ください。
- FM/AMアンテナコード、バスケーブル、RCAピンコード、および電源コードの各コードは、できるだけ離して配置してください。ノイズの原因となります。

- バスケーブルやコード類を外すときは、コネクタ部分を持って抜いてください。
コードを引っ張ると、コードが抜けてしまうことがあります。
- 車両側から本機に配線する場合は、ソニー配線キットを必ずご使用ください。配線キットをご使用にならないと故障の原因となる場合があります。当社では車種別配線キットを用意してありますので、お買い上げ店にご相談ください。

次のページへつづく

接続する (つづき)

接続図



1 車体の金属部分へ

車体の金属部分に確実にアースしてください。

ご注意

赤色コード、黄色コードおよび橙/白色コードを接続する前にこのコードをアースしてください。

2 パワーアンテナコントロールコード、または純正アンテナブースターアンプの電源コードへ

ラジオの受信中は、このコードから12ボルトのコントロール用電源を供給します。くわしくはお手持ちのパワーアンテナの説明書をご覧ください。

ご注意

- 車種（リアまたはサイドガラスに内蔵しているプリント線状のFM/AMアンテナの場合）によっては、純正アンテナブースターの電源供給コード（車両側）に接続する必要があります。
- リレーボックスの付いていないパワーアンテナは使用できません。
- 車側にパワーアンテナや純正アンテナブースターがない場合、あるいは手動式のロッドアンテナの場合には接続の必要はありません。
- ノイズ防止のため、スピーカーコードや電源コードからできるだけ離して取り付け、配置してください。

3 パワーアンプのリモート入力へ

パワーアンプへの接続専用コードです。

ご注意

他の機器へ接続すると故障の原因となります。

4 カーナビゲーションシステムのATT出力コードへ

ソニーのカーナビゲーションシステムのATT出力に接続します。

5 車両のイルミネーション電源へ

車のヘッドライト（スモールランプ）スイッチを入れたとき、本機のディスプレイが減光します。

ご注意

必ず先に黒色コードをアースしてから接続してください。

6 アクセサリー（ACC）電源へ

車のキーをLOCKかOFFにすると電源供給が切れて、ACCにすると電源が入るところ（ラジオ回路など）に接続します。

ご注意

- 必ず先に黒色コードをアースしてから接続してください。
- バッテリー電源など、常時通電しているところには接続しないでください。バッテリー上がりの原因となります。ただし、アクセサリ（ACC）ポジションがない車の場合は、バッテリー電源へ接続してください。その際、接続した後、本機のOFFボタンを押し続け、表示が消えていることを確認してください。表示されたままだと、バッテリー上がりの原因となります。

7 バッテリー（BAT）電源へ（常時通電している電源へ）

車のキーの位置に関係なく、常時通電していてヒューズの容量値以上の電源が取れるところに接続します。イグニッションスイッチをOFFにすると、メモリー保持用の電流だけが流れます。

ご注意

- 必ず先に黒色コードをアースしてから接続してください。
- 以下のことを確認してください。異常が生じたとき車両のヒューズが先に切れ、他の機器が機能しくなります。
 - 電源の黄色コードを接続するときは、本機のヒューズ容量が車両側（純正ラジオ用バックアップ電源）のヒューズ容量より小さい値であること。
 - アンプなどを接続したシステムで使用する場合は、総ヒューズ容量が車両側のヒューズ容量より小さい値であること。
 - 車両側の容量が小さい場合は、バッテリーから直接電源を引くこと。

*1 RCAピンコード

*2 バスケーブル

*3 CD/MDチェンジャーまたはソースセクターに付属のRCAピンコード/バスケーブル、またはRC-61（1m）、RC-62（2m）などをご使用ください。

*4 市販のRCAピンコードをご使用ください。

*5 車両側に接触するときは、RC-U305（0.5m）をご使用ください。

*6 ケーブルの▲と本体側の▼の位置を合わせ、確実に接続してください。

*7 DVDプレイヤーに付属。

*8 スピーカーがギボシ端子に加工されていない場合は、市販のギボシ端子で加工し、接続してください。

取り付ける

取り付ける前に

接続しないコードは金属部分を露出したままにせず、絶縁して取り付けてください。絶縁しないと認め故障の原因となります。

取り付け場所

次のような場所には取り付けしないで下さい。

- 運転の妨げになる所
- グローブボックスのふたの開閉や、灰皿の出し入れの妨げになる所
- ほこりの多い所
- 磁気を帯びた所
- 直射日光やヒーターの熱風などが当たる所
- 雨が吹き込んだり、水がかかる所、湿気の多い所

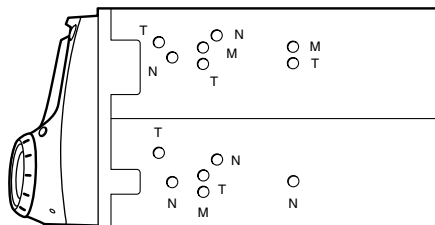
ご注意

- 水平から**+45度以内**で取り付けてください。45度を超えて傾けて取り付けると、CDやMDの音とびなどの原因となります。
- 純正ブラケットを本機に取り付けるときは、本機側面に刻印されているT（トヨタ車用）、N（日産車用）、M（三菱車用）マークにブラケットの取り付けネジ穴を合わせて、付属のネジ①または②で取り付けてください。

センターコンソールやインダッシュに取り付ける

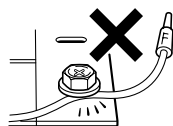
トヨタ車、日産車、三菱車のほとんどは純正カーオーディオを外して、そのあとに本機を取り付けることができます。取り付け可能車はお買い上げ店にお問い合わせください。

お車上記以外の場合は、取り付けキットが必要です。
お買い上げ店にご相談ください。



ビス・ナット類のご注意

- 必ず付属のビス類をお使いください。
- ビスやナットを締めるとき、他の配線をはさみ込まないようにご注意ください。



- 車体のボルトやナットを使って共締めやアースをするとき、ハンドルやブレーキ系統のものは絶対に使わないでください。
- 外したビス類は、小箱や袋に入れて紛失しないようにしてください。



- 外すビスの種類が多いときは、混同しないようにしてください。

次のページへつづく

取り付ける (つづき)

ご注意

- 本機のフロントパネル部の表示窓を押したり、ボタンに強い力を加えたりしないでください。
- 本機の上部に物をはさみ込まないでください。

* 付属の皿ネジ①またはトラスネジ②で取り付けてください。他のネジを使用すると故障の原因となります。また、車両側の純正ブラケットを通さず、本体に直接ネジを締め付けると故障の原因になります。

本体を取り付ける

1 純正カーオーディオを取り外す。

センターコンソールやインダッシュから純正カーオーディオを取り外します。

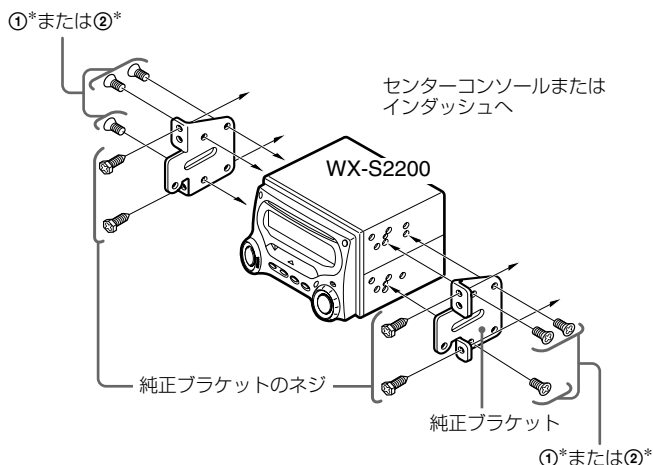
(取り外しかたがわからない場合は、裏表紙に記載されているソニーFAXインフォメーションサービスなどをご利用ください。)

2 本機を取り付ける。

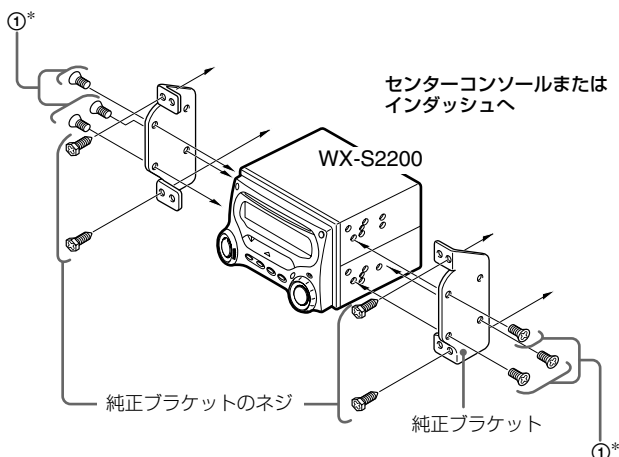
カーオーディオを取り付けていた純正ブラケットを利用して、本機を取り付けます。

トヨタ車/三菱車の場合 (イラストはトヨタ車の場合)

①と②のネジは取り付ける車両により使い分けてください。
三菱車に本機を取り付ける場合は、②のネジをお使いください。

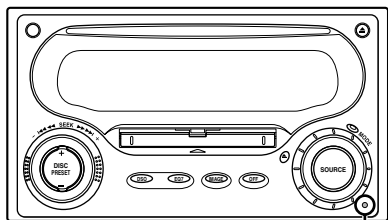


日産車の場合



取り付けと接続が終わったら

- 1 取り付けや接続に誤りがないか、各コードは確実に接続されているかを、もう一度確認する。
- 2 ブレーキランプやライト、ホーン、ウィンカー、ワイパーなど、すべての電装品が正しく動作することを確認する。
- 3 リセットボタンをつまようじの先などで押す。



リセットボタン

- 4 本機が正しく動作するか確認する。

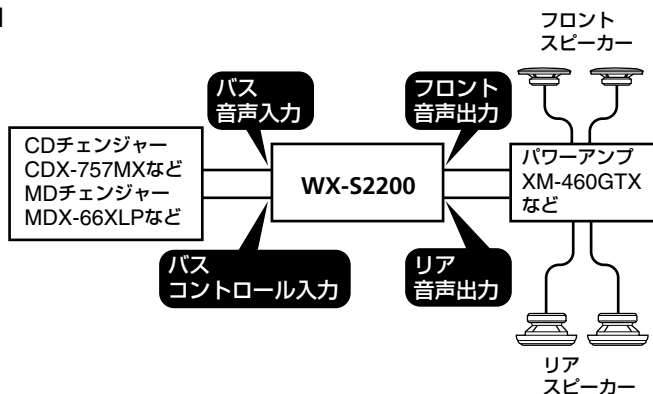
ご注意

- リセットボタンを針のようなもので強く押すと故障の原因となります。
- リセットボタンを押してから10秒間はCDおよびMDを挿入しないでください。リセットされないことがあります。その場合は、もう一度リセットボタンを押してください。
- すでにディスクが入っている場合は、挿入し直してから操作してください。リセット後そのまま操作すると、「NO Disc」などのエラー表示が出て正しく動作しないことがあります。

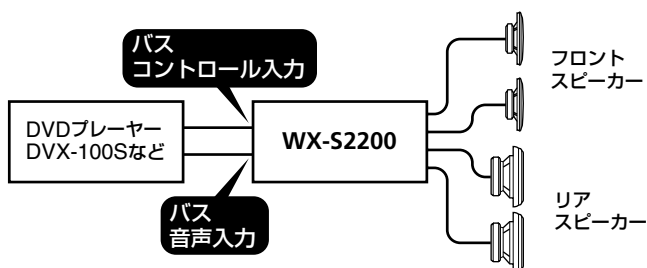
システム接続例

2台以上のチェンジャーを接続する場合は、ソースセクターXA-C30が必要です。

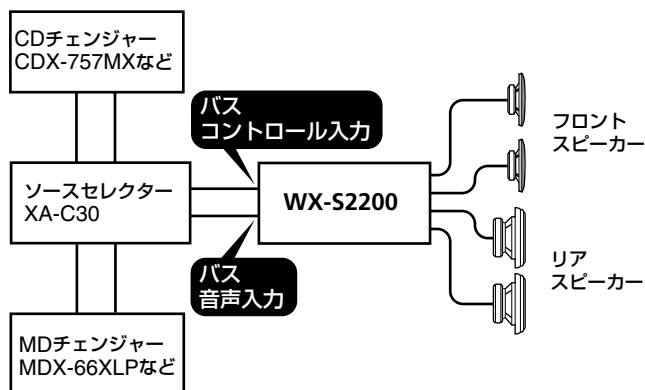
接続例1



接続例2



接続例3



接続関係のご注意

スピーカーを接続するときは

次のことをお守りください。スピーカーの故障や破損の原因になります。

- スピーカーを接続する前に、必ず本機の電源をOFFにしてください。
- インピーダンス4〜8Ωのスピーカーをお使いください。
- 十分な許容入力を持つスピーカーをお使いください。
- スピーカーの⊕、⊖端子を車のシャーシなどに接続しないでください。
- 本機のスピーカーコードどうし（特に⊕端子どうし、⊖端子どうし）を接続しないでください。
- 既設の純正スピーカーコードを使う場合、左右のスピーカーコードの⊖側が共通になっているものは使わないでください。
- 本機のスピーカーコードにスピーカーを接続しない場合は、安全のため、端子にビニールテープを巻いてください。
- 本機のスピーカーコードにアクティブスピーカー（アンプ内蔵スピーカー）を接続すると、本機を破損するおそれがあります。アクティブスピーカーの使用を避け、通常のスピーカーをお使いください。
- トヨタ車や日産車、三菱車には当社のトレードインスピーカーがあります。くわしくはお買い上げ店にご相談ください。
- 本機のアース用コード（黒色）をスピーカーの⊖端子に接続しないでください。

ヒューズについて

- 本体の後面にあるヒューズが切れたときは、配線などをチェックして必ず原因を確かめ、適切な処置をしてください。その後、ヒューズに記してある規定容量（アンペア数）のヒューズと交換してください。
- 本機のバッテリー電源用コード（黄色）を接続する前に、本機のヒューズ容量が車両側のヒューズ容量（ラジオまたはオーディオ電源）より小さい値であることを確認してください。判断が難しい場合は、お買い上げ店にご相談ください。

電源配線について

車種によっては、車両側の配線が細い（電流容量不足）ため、エンジンアイドリング時にライトやエアコンを動作させると、正常に動作しないことがあります。この場合は、電源コードRC-39を使って電源配線することをおすすめします。

純正アンテナブースターの接続

車種（リアまたはサイドガラスに内蔵しているプリント線状のFM/AMアンテナの場合）によっては、純正アンテナブースターの電源供給コード（車両側）に接続する必要があります。この場合はパワーアンテナコントロールコード（青色）または、アクセサリ電源用コード（赤色）を接続してください。くわしくは、お買い上げ店にご相談ください。

接続関係のご注意（つづき）

パワーアンテナをお使いになる場合

本機裏面から出ている青色コードをパワーアンテナ（リレーボックス付き）に接続してお使いになると、ラジオの電源を入れた時にパワーアンテナが自動的に出ます。

ACC（アクセサリー）ポジションの無い車に本機を取り付けた場合の操作上のご注意

車を離れる場合は、必ず本機のOFFボタンを押し続けて表示が消えたことを確認してください。

OFFボタンを短く押しても、表示が消えずバッテリーあがりの原因となります。

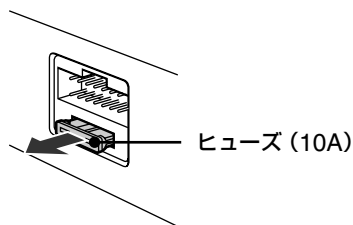
使用上のご注意

本体の表面を傷めないために

本体表面に殺虫剤やヘアスプレーがかかったり、防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品が長時間接触しないようにしてください。本体表面が変質、変形したり、塗装がはげたりすることがあります。

ヒューズについて

ヒューズを交換するときは、必ずヒューズに記してある規定容量（アンペア数）のヒューズをお使いください。規定容量を超えるヒューズや針金で代用すると故障の原因となります。



結露について

寒いときにヒーターをつけた直後など、CD/MDプレーヤー内部の光学系のレンズに露（水滴）が生じることがあります。このような現象を結露といいます。

結露したままですと、レーザーによる読み取りができず、CD/MDプレーヤーが動作しないことがあります。

周囲の状況にもよりますが、ディスクを取り出して放置しておけば、約1時間ほどで結露が取り除かれ、正常に動作するようになります。もし、何時間経過しても正常に動作しない場合は、お買い上げ店またはお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

表示窓の結露について

寒いところから暖かいところへ持ち込んだ場合などに、表示窓の内部に露が生じてくることがあります。

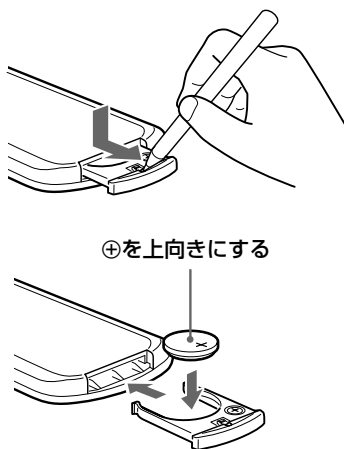
このような場合は、しばらく放置しておくことで結露が取り除かれ正常に戻ります。

カードリモコン

電池の入れかた

カードリモコン

リチウム電池CR2025の⊕と⊖を正しく入れてください。



次のページへつづく

使用上のご注意（つづき）

電池の交換時期

電池が消耗するとボタンを押しても操作できないこともあります。普通の使いかたで約1年もちます（使用方法によっては短くなります）。カードリモコンがまったく動作しない場合は電池を交換し、動作を確認してください。

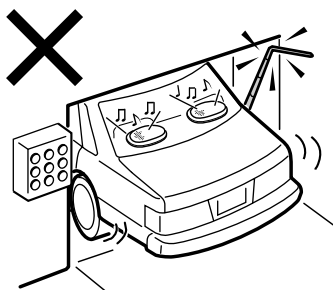
カードリモコンについてのご注意

- ダッシュボードの上やハンドルの上など、直射日光の当たるところにカードリモコンを取り付けたり放置しないでください。熱によりカードリモコンが変形するおそれがあります。（特に夏期の直射日光の当たるダッシュボードの上はかなりの高温になりますのでご注意ください。）
- 直射日光の当たるところに駐車するときは、カードリモコンを取り付け場所から外し、グローブボックスの中など直射日光の当たらないところに保管してください。
- 直射日光下ではカードリモコンの信号が受信されにくくなることがあります。このようなときは、フロントパネルの受光部にカードリモコンを近づけて操作してください。

その他のご注意

アンテナの高さより低い場所（駐車場や洗車機など）へ入るときはラジオを止める

ラジオの受信中はパワーアンテナが自動的に上がります。低い場所へ入るときは、必ずラジオ以外のソースに切り換えるか、OFFボタンを押してアンテナが下がったことを確認してください。



故障かな？

下記の処置を行っても効果がないときは、接続に問題があるか、故障と考えられます。
お買い上げ店またはお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

症状	原因・処置
音が出ない。	<ul style="list-style-type: none">● 音量を上げてください。● ATT機能を解除してください。● アース用コード（黒色）、アクセサリ電源用コード（赤色）、バッテリー電源用コード（黄色）が正しく接続されていない。● スピーカー接続時、スピーカー出力の設定が正しくない。 → 2スピーカーで聞くときは、スピーカーバランスをフロント、あるいはリア側にしてください。● スピーカーコードが外れている。● 別売りのMDLP未対応のMDチェンジャーで長時間録音のMDを再生している。曲名表示に「LP：・・・」と出ている。 → 本機またはソニー製MDLP対応機器（MDX-66XLPなど）で再生してください。
共通 フロントスピーカーとリアスピーカーの音が逆に出る。	スピーカーコードが逆に接続されている。 → スピーカーコードの接続を確認してください。
メモリーの内容が消えてしまった。	<ul style="list-style-type: none">● リセットボタンを押した。● バッテリー電源用コードまたはバッテリーを外した。● 電源コードが正しく接続されていない。
ボタンを押したときの「ピッ」という音が出ない。	<ul style="list-style-type: none">● 「ピッ」という音が出ない設定になっている。 → Beepの設定を「on」にしてください（42ページ）。● 内蔵アンプを使用せず、別売りのアンプを使用した場合「ピッ」という音は出ません。
なにも表示されない。	OFFボタンを押し続けて表示を消した状態にしている。 → 本体のOFFボタンを押し続けるかSOURCEボタンを押す、またはDISCを挿入して表示を出してください。

[次のページへつづく](#)

故障かな?(つづき)

症状	原因・処置
電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 車のバッテリーが正しく接続されていない。 ● 電源コードが正しく接続されていない。 ● イグニッションキーにACCポジションがない車に取り付けている。 → SOURCEボタンを押すかディスクを挿入して電源を入れてください。 ● ヒューズが切れている。 → 「ヒューズについて」(59ページ) をご覧になるか、お買い上げ店にご相談ください。
勝手に「ATT」表示が点滅して音量が下がる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 本機のナビ用ATT入力コードとソニー製カーナビシステムのATT出力コードが接続されていると、カーナビシステムの設定により、音声案内時は自動的に「ATT」表示が点滅して音量が下がります。 ● 本機のナビ用ATT入力コードの先端部分が車の金属部にショートしている。 → コードの先端部分をビニールテープ等でショートしないように保護してください。
ノイズが出る。	アンテナコード、バスケーブル、RCAピンコードおよび電源コードなどの各コードは、できるだけ離して取り付け、配置してください。
電源がOFFにならない。	イグニッションキーにACCポジションがない車に取り付けている。 → OFFボタンを押し続けてください。
オートアンテナが上がらない。	リレー内蔵のオートアンテナに接続していない。
ボタンを押しても動作しない。	リセットボタンを押してください。
「■■■■■」表示が消えない。	「Name Edit」(名前入力) モードに入った。 → カードリモコンのENTERボタンを押す、またはLISTボタンを2秒以上押し続けてください。
車のライトをONにしても表示窓が減光しない。	イルミネーション電源用コード(橙/白色) が正しく接続されていない。

症状	原因・処置
ディスクが入らない。 ディスクを入れてもすぐに出てくる。	<ul style="list-style-type: none"> • すでに別のディスクが入っている。 • ディスクを誤った向きに入れようとしている。 → ラベル面を上にして入れてください。
音がとぶ。 音が途切れる。 音が割れる。	<ul style="list-style-type: none"> • CDが汚れている。 → ディスクをクリーニングしてください。 • ディスクが傷ついている。 • 本機の取り付け角度が45°を超えている。 • 本機またはチェンジャーが正しく固定されていない。 • 320kbpsなどの高ビットレートで記録されているMP3ファイルを再生している。 • MDではごくまれに録音機と本機との互換性により音がとぶことがあります。この場合、録音機のメーカー名と機種名をご確認のうえ、お近くのソニーサービス窓口へご相談ください。
MP3ファイルが再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> • MP3未対応のCD機器の場合はCDと認識し、無音再生します。 • ISO9660レベル1、レベル2、Joliet、Romeoに準拠して記録されていない。 → 準拠しているCDを使用してください。 • MP3ファイルに拡張子が付いていない。 → 記録した機器で拡張子「.mp3」を付けてください。 • MP3ファイル以外に拡張子「.mp3」を付けている。
CD-RまたはCD-RWが再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> • 再生しようとしているCD-RまたはCD-RWがオーディオ用フォーマットになっていない。 • ディスクの記録状態などが良くない。
MDが再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> • 何も録音されていないMDが入っている。 → 録音済みのMDに入れ換えてください。 • 長時間録音されたMDをMDLP未対応のMDチェンジャーなどで再生している。 → 本機またはソニー製MDLP対応機器（MDX-66XLPなど）で再生してください。
名前が正しく表示されない。	DISCを作成した環境によっては、文字が正しく表示されない場合があります。

故障かな?(つづき)

症状	原因・処置
ラジオ	<p>受信できない。 雑音しか出ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● パワーアンテナコントロールコード（青色）または、アクセサリ電源用コード（赤色）を、純正アンテナブースターの電源供給コード（車両側）に接続してください（リアまたは、サイドガラスに内蔵しているプリント線状のFM/AMアンテナの場合のみ）。くわしくは、お買い上げ店にご相談ください。 ● アース用コード（黒色）が正しく接続されていない。 ● カーアンテナとの接続を確認してください。 ● パワーアンテナが上がっていない。 → パワーアンテナコントロールコード（青色）の接続を確認してください。 ● 周波数を確認してください。 ● IF機能が「IF-Wide」になっている。 → 「IF-Auto」にしてください（34ページ）。
	<p>←または→ボタンを押しても聞きたい放送局で止まらない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「Local-on」に設定している場合は電波の強い周波数のみ受信します。 → 「Loca-off」にしてください（33ページ）。 ● 電波が弱くて自動選局できない。 → ←または→ボタンを押し続けて周波数を合わせてください。
	<p>ステレオ放送が聞きにくい。 「ST」表示が点滅する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 周波数を確認してください。 ● 電波が弱い。 → モノラルモードに設定してください（34ページ）。 ● DSOの設定を「DSO OFF」にしてください（36ページ）。
サウンド設定	<p>音が出ない。 音が小さい。</p> <p>バランス（BALANCE）、フェーダー（FADER）などのスピーカー出力の調節で、特定のスピーカーの音量が小さくなった。 → BALANCE、FADERを調節してください（40ページ）。</p>

エラー表示

本機やCD/MD機器が誤動作すると、アラーム音が鳴り、エラー表示が5秒間点滅します。

エラー表示	原因	処置
Blank	MDに何も録音されていない。	ほかのMDに入れ換える。
Error	ディスクが裏返しになっている。	ディスクを正しく入れ直す。
	CDが汚れている。	CDをクリーニングする。
	ディスクが何らかの原因で再生しない。	ほかのディスクに入れ換える。
Failure	スピーカーやアンプの接続が正しくない。	接続を確認するため、「取り付けと接続」を見る。
High Temp	周囲の温度が50°Cを超えている。	50°C以下に下がってから再生する。
NO Disc	チェンジャーにディスクが入っていない。	ディスクを入れる。
NO Magazine	CD機器にディスクマガジンが入っていない。	ディスクマガジンにディスクを入れ、CD機器に入れる。
NO Music	MP3対応CD機器に音楽ファイル以外のデータが記録されたディスクが入っている。	音楽データの記録されたディスクを入れる。
Offset	内部に故障の可能性がある。	接続を確認する。 ディスプレイのエラー表示が消えない場合、お近くのソニーサービス窓口を持ち込む。
Push Reset	何らかの原因で動作しない。	本機のリセットボタンを押す。

保証書とアフターサービス

保証書（別に添付）

保証書は、所定事項の記入をお確かめのうえ、お買い上げ店からお受け取りください。内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

修理を依頼される前に「故障かな？」の項目に従って、故障かどうかをお調べください。直らないときは、お買い上げ店またはお近くのサービス窓口（別紙）にご相談ください。

保証期間中

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。

保証期間を過ぎたら

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間

この製品の補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後、6年間保有しています。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

主な仕様

CDプレーヤー部

SN比	120dB
周波数特性	10~20,000Hz
ワウフラッター	測定限界以下

MDプレーヤー部

SN比	90dB
周波数特性	10~20,000Hz
ワウフラッター	測定限界以下

チューナー部

FM

受信周波数	76~90MHz (テレビ1~3ch)
中間周波数	10.7MHz/450kHz
実用感度	9dBf
周波数特性	30~15,000Hz
実効選択度	75dB (400kHz)
SN比	67dB (ステレオ) 69dB (モノラル)
ひずみ率 (1kHz)	0.5% (ステレオ) 0.3% (モノラル)
ステレオセパレーション	35dB以上 (1kHz)

AM

受信周波数	522~1,629kHz
中間周波数	10.7MHz/450kHz
実用感度	30 μ V

アンプ部

適合インピーダンス	4~8 Ω
最大出力	52W \times 4 (4 Ω 負荷1kHz)

電源部、その他

電源	DC12Vカーバッテリー (マイナスアース)
出力端子	フロント音声出力端子、 リア音声出力端子、 アンプコントロール、 アンテナコントロール
入力端子	バス音声入力端子/外部音声入力 端子、 バスコントロール入力端子、 ATT入力端子 (ナビ用)、 FM/AMアンテナ入力端子 (Jaso用)、 イルミネーションコントロール 入力端子
トーンコントロール	低音 : ± 8 dB (100Hz) 高音 : ± 8 dB (10kHz)
ラウドネス	100Hz : +8dB 10kHz : +2dB
本体寸法	約178 \times 100 \times 201mm (幅/高さ/奥行き)
取付寸法	約178 \times 100 \times 161mm (幅/高さ/奥行き)
質量	約2.1kg
付属品	カードリモコン RM-X141 (1) (リチウム電池 (1) を含む) 取り付け/接続部品 (一式) 取扱説明書 (一式) ソニーご相談窓口のご案内 (1) 保証書 (1)

[次のページへつづく](#)

主な仕様（つづき）

別売品	CDチェンジャー（10枚）
	CDX-757MXなど
	MDチェンジャー（6枚）
	MDX-66XLPなど
	DVDチェンジャー（10枚）
	DVX-100S
	パワーアンプ
	XM-460GTXなど
	ソースセクター
	XA-C30
	外部入力セクター
	XA-300
	バスケーブル（RCAピンコード 付属）
	RC-61（1m）、 RC-62（2m）
	バス延長コード
	RC-U305（0.5m）
	電源コード
	RC-39

ご注意

本機には別売りのデジタルブリアンプやイコライザーは接続できません。

本機は、「ドルビーラボラトリーズの米国及び外国特許に基づく許諾製品」です。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

索引

五十音順

ア行

アース 53、55、59
イコライザー 37～39
エラー表示 67
オートスクロール
..... 29、42～43
音量 17～19、21、40

カ行

カスタムファイル 44～47
画像 48～49
壁紙 48

サ行

シャッフル 31
純正アンテナブースター
..... 53、59
ステーションメモ 44～47
ステレオ放送 34
スペースプロデューサー 48
スペクトラムアナライザー
..... 48～49
ソースサウンドメモリー 40

タ行

ディスクメモ 44～47
電源コード 51、53、59
動画 48～49
登録
 自動登録 32
 手動登録 35
時計 23

ナ行

名前
 探す 47
 消去する 46
 つける 44～45
 表示する 27、33、46

ハ、マ、ヤ行

バスケーブル 51
バッテリー電源 53、59
バランス 40
パワーアンテナ 53、59、60
ヒューズ 52、53、59、61
表示窓
 CD/MD 27
 ラジオ 33
ベストチューニングメモリー
 (BTM) 32
ボタンの音 42～43

ラ、ワ行

ラジオ 18、32～35
 自動選局 18、32
 登録 32、35
リスト 46
リセット 16、19、57
リピート 30
リモコン
 カードリモコン
 21～22、61～62

アルファベット順

ACCポジション
..... 19、53、60
A.Image 42～43、48～49
A.Scroll 29、42～43
ATT 40
AUX-A 50
AUX Level 43、50
AUX Lite 50
BALANCE 40
BASS 40
BBE MP 41
Beep 42～43
BTM 32
CD/MD 17、24～31
 CD TEXT 24、27～28
Clock 42～43
Clock Adjust 23、42～43
Demo 42～43
Dimmer 42～43
Display 42
DSO 36
Edit 42～43
EQ7 37
EQ7 Tune 43
FADER 40
FM/AMアンテナ 51、59
ID3タグ 27
IF-Auto/Wide 34、43
INFO 42～43
Local 33、43
Loudness 43
MDLP (LP2/LP4) 28
Mono 34、43
MP3 12～14、24～28
Name Delete 42、46
Name Edit 43～45
Receive Mode 42～43
REP 30
SA 48～49
Setup 42
SHUF 31
Sound 42～43
TREBLE 40

ソニーFAXインフォメーションサービスのご案内 (FAX付電話でご利用になれます)

カーフィッティングFAXサービス 車種メーカー、車種・車種形式別の
カーオーディオ部の取り外し方法、各種センサー位置等の資料

- ①インデックスの入手/03-3552-7209 →車種メーカー別のBOX番号を受信
②資料請求/03-3552-7488 →アナウンスに従いご希望の車種の該当BOX番号
を入力してください。

24時間
お手元のFAXで
資料が取り出せます

- ソニーFAXインフォメーションサービスをご利用の際のインデックス入手料・資料請求は通話料のみお客様のご負担となります。またFAXの機能によっては受信できない場合があります。
- FAXサービスのメンテナンス日は 毎月第2木曜日 午前8:00～午後11:00となっております。ご迷惑をおかけしますが、当日前記時間帯は資料を取り出すことはできません。ご了承ください。(第2木曜日が祭日の場合は前日の水曜日をメンテナンス日とさせていただきます。)

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

ホームページ ● <http://www.sony.co.jp/SonyDrive/>

「ソニードライブ」は、ソニーの商品情報とライフスタイルをご提案するホームページです。
「良くあるご質問」「修理情報」「ショッピング情報」は、ホームページをご活用ください。

お客様ご相談センター

●ナビダイヤル*.....  0570-00-3311

(全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます)

●携帯電話・PHSでのご利用は*..... 03-5448-3311

(ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください)

●FAX.....0466-31-2595

受付時間: 月～金曜日 9:00～20:00 土・日・祝日 9:00～17:00

*お電話は自動音声応答にてお受けし、内容に応じて専門の相談員が対応します。
はじめにご用件を下記より、次に音声案内にそって商品カテゴリーの番号を押してください。
選択番号は変更になることがありますので、ご容赦願います。

- 1: 修理受付
- 2: 使用方法や故障と思われるご相談
- 3: お買物相談
- 4: 業務用・プロ用商品に関するご相談全般
- 5: その他のご相談

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35



- 主なはんだ付けに無鉛はんだを使用しています。
- キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません。
- 包装用緩衝材に紙材料を使用しています。
- 外箱の印刷にVOC(揮発性有機化合物)ゼロ植物油型インキを使用しています。